

文化構想学科 文化資源コース

小劇場演劇の今日的な発展戦略の中でみる  
『TRUMP』シリーズの展開の独自性について

文学部 2023 年度

A20LA068

すぎもと ほのか  
杉本 穂花

# 目次

序論 .....	1
第1章 関西小劇場の歴史 .....	2
1-1 関西の小劇場ブーム.....	2
1-2 関西小劇場出身の劇団 劇団☆新感線.....	4
1-3 関西小劇場出身の劇団 劇団鹿殺し・ヨーロッパ企画.....	4
第2章 末満健一と『TRUMP』シリーズについて .....	7
2-1 末満健一のバックグラウンド.....	7
2-2 『TRUMP』シリーズ主要作品の情報.....	8
第3章 『TRUMP』シリーズのプロデュース手法 .....	11
3-1 『TRUMP』の立ち上げ.....	11
3-2 2.5次元舞台の勃興と『TRUMP』 .....	12
3-3 女性アイドルグループの舞台出演と『LILIUM』 .....	16
3-4 『SPECTER』以降の舞台作品.....	17
3-5 舞台以外の作品展開.....	19
第4章 X (旧 Twitter) 分析.....	20
4-1 分析の方法.....	20
4-2 分析結果と考察.....	21
結論 .....	31
参考/引用文献 .....	33

## 序論

2009年、関西のわずか160席の劇場から始まったオリジナル演劇シリーズ『TRUMP』シリーズは、約10年でシリーズ累計動員数10万人を突破し、以降もコミカライズやアニメ化など拡大を続ける人気シリーズへと発展してきた。これは、近年、劇場の閉鎖が相次ぎ観客動員の低迷が叫ばれる関西小劇場において、数少ない成功例であると言える。

しかし、関西小劇場についての研究は、1980年代に起こった関西小劇場ブームから2000年代初頭のブーム衰退までの演劇活動に関するものが多く、『TRUMP』シリーズをはじめとして2000年代以降に成長した特定の劇団や作品については学術的な研究が十分に為されていない。

そこで本論文では、『TRUMP』シリーズプロデュースの軌跡とSNS上でのファンの投稿を辿ることで、この成功の背景にどのような要因があったのかを考察する。これは、関西の小劇場演劇がどのように拡大していく道があるのか可能性を探る上での一助となると考える。

まず第1章では、先行研究を踏まえ、1980年代に始まったとされる関西小劇場ブームの実態を明らかにするとともに、主な関西小劇場出身の劇団の軌跡を辿り、どのような点が評価されて人気を拡大させてきたのかを考察する。第2章では、インタビュー記事を基に『TRUMP』シリーズの作・演出を務める末満健一のバックグラウンドを整理し、シリーズの特徴についても言及する。第3章では、『TRUMP』シリーズの作品展開や各作品のキャスト・主催者の情報を調査し、そのプロデュース手法について考察する。第4章では、前章で考察したプロデュース手法によってどのようにファン層が拡大してきたのかを明らかにするため、X（旧Twitter）上でファンの言説を調査する。

## 第1章 関西小劇場の歴史

### 1. 関西の小劇場ブーム

関東では1960年代頃から、唐十郎や鈴木忠志、蜷川幸雄ら「小劇場第一世代」が担い手となり、「カウンターカルチャー」としての思想性、政治性の強い実践的な演劇、所謂「アンガラ演劇」が展開されてきた<sup>1</sup>。1970年代にはつかこうへい、北村想ら「小劇場第二世代」が台頭し、笑いの要素を取り入れた演劇が演劇を娯楽として楽しむ観客を取り込むと、1980年代頃になると野田秀樹、鴻上尚史ら「小劇場第三世代」がスピード感と華やかさのある演劇で若者の支持を集める。若者の旗揚げと小劇場の激増はメディアからも注目され、消費社会との結びつきを強めた小劇場演劇は次第に「サブカルチャー化」していく。

しかし、一方の関西では、1960年代～1970年代に本格的な小劇場はほとんどなく、協会を劇場として解放していた島之内小劇場と天王寺野外音楽堂に仮設的に建てられたテントや特設の野外劇場が数少ない拠点となっていたのみであった<sup>2</sup>。関東から少し遅れた形でようやく関西の小劇場ブームが始まるのは1980年代のことである。

このブームの火付け役となったのは、1978年に大阪梅田の若者向けファッションビル阪急 HEP FIVE の8階にオープンした阪急ファイブ・オレンジルームであった<sup>3</sup>。この劇場の最大の特徴は、単なる貸し館としての劇場ではなく、プロデューサーの中島陸郎の構想の下に若い才能の発掘と発信が行われ、インキュベーター的要素を備えた劇場として機能していたことだ。

中でも1982年から1986年に開催された「オレンジ演劇祭」では、中島の徹底した実証主義のもと、プロデューサー自ら足を運んで選出した各地の学生劇団が一同に集結し、関西の小劇場に若者の熱気をもたらした。劇団そとばこまちや劇団☆新感線、南河内万歳一座らが登場し、彼らが学生演劇という領域出て注目を浴びるきっかけを創ったオレンジ演劇祭は、若手の登竜門となっていく。そして、このオレンジ演劇祭の6日間で4団体、各2公演ずつというタイトなスケジュールは、否応なしに参加劇団同士が協力しあう関係性を作り出すという思わぬ副産物も生んだ。

また、オレンジルームでは東京や名古屋の劇場と劇団同士を送りあって公演を行う交流企画を実施したり、東京の有名劇団を招いて公演を行ったりと、関西の劇団同士だけではなく東西の繋がりを生んだという点においても果たした功績は大きい。

そして、オレンジルームから始まった関西の小劇場ブームを発展、定着させたのが、1985年、大阪ガスの遊休地開発事業により改装された文化複合施設内にオープンした扇町ミュージアムスクエア（以下OMS）である<sup>4</sup>。

OMS で上演したことのある劇団のメンバーや長年 OMS を取材してきた記者が多く口にするのは、OMS のスタッフの勤勉さと温かさである。OMS では自主企画を積極的に行っていたが、それはスタッフが企画立案し、制作を担当するというものであった。スタッフ自ら各地で行われている演劇公演を視察、選出し開催したフェスティバル「扇町アクト・トライアル」や、後述する「OMS 戯曲賞」なども自主企画によるものだ。こうした企画からはいかに OMS が劇団に愛着を持ち、寄り添ってきた劇場であったかが伺える。だからこそ、OMS は多くの劇団や観客から信頼を得てコミュニティの中心となることができた。実際に、劇団にファンがつくことが多かった中で、OMS は劇場にファンがおり、無名の劇団であっても活躍のチャンスが得られる場になっていたという。

そして何よりも関西の小劇場界に貢献したのが、OMS10 周年記念事業として 1994 年からスタートした OMS 戯曲賞である。『次世代を担う新たな劇作家の発掘』と『中堅劇作家への刺激』を図ることで関西演劇界の振興に貢献したい、「10 周年を単なるお祭りにせず、後に残るものを作りたい」という想いから創設されたこの戯曲賞は、松田正隆や鈴江俊郎、内藤裕敬、岩崎正裕らを輩出した。特に、第 1 回の大賞受賞者である松田と第 2 回大賞受賞者である鈴江は、その後第 40 回岸田國士戯曲賞を受賞しており、OMS 戯曲賞は関西の劇作家の才能発掘に貢献したと言える。また、大賞受賞作は翌年に OMS プロデュースで再演され、東西に関わらずキャスト・スタッフを一新して創る公演は東西の才能が出会うきっかけとなった。その他にも、OMS は東京の人気劇団による大阪公演の上演も実現させており、OMS はオレンジルーム同様、関西の劇団に寄り添うだけでなく東西のネットワークを生み出してきた存在であった。

関西では 1980 年代にオレンジルームや OMS に加えて近鉄劇場・小劇場や近鉄アート館、伊丹市立演劇ホールが、1990 年代にウィングフィールドや大阪市立芸術創造館、アトリエ劇研などが誕生したことで、劇場をより多様化し、関西の小劇場シーンを支えてきた<sup>5</sup>。しかし、2000 年代に入ると状況は一変する。2001 年近鉄アート館が演劇事業を休止、2003 年 OMS 閉館、2004 年近鉄劇場・小劇場閉館、主要な劇場を失った関西の小劇場に活気を取り戻すべくオープンしたウルトラマーケットも 10 年と経たず 2010 年に閉館、大阪唯一の公立劇場であった市立精華小劇場も 2011 年に閉館した。その多くが赤字経営による財政難を理由としていた。後続の劇場も長くは続かず、劇団の解散も相次いだことで関西の小劇場はかつての熱を失っていく。

## 2. 関西小劇場出身の劇団 劇団☆新感線

1980年代の関西小劇場を代表する劇団のひとつが劇団☆新感線である。同劇団は、1980年11月、大阪芸術大学芸術学科の4回生だった枯暮修とその後輩いのうえひでのりらを中心に結成されると、枯暮の卒業公演『熱海殺人事件‘81～野獣死すべし』がオレンジルームのプロデューサー中島陸郎に見初められ、劇団として本格的に始動<sup>6</sup>。その後数年は、当時日本を席卷していたつかこうへいブーム、つか作品コピーの波に乗って数々のつか作品を上演する中で動員を伸ばし、関西学生演劇の中心的存在となっていく。

しかし、84年の「グッバイミスターつかこうへい!!」三作一挙上演を最後にオリジナル路線に転換すると、劇団員の退団も相まって観客が激減。劇団にとっては苦況の時期となったが、試行錯誤の中で奇抜で派手な殺陣が織り込まれた「いのうえ歌舞伎」をはじめとして、ギャグと音楽を織り交ぜた「ネタもの」、ハードロック、下ネタなど劇団の色を見出し、再び注目を集めるようになった。88年には、いのうえ歌舞伎第一作目のリメイクとなる『星の忍者一風雲乱世編一』で初の東京進出。この東京進出は、関西小劇場ブームの中心であり、劇団☆新感線も幾度となく公演を行っていたオレンジルームや扇町ミュージアムスクエアの存在、劇団の制作部門から独立し東京の劇団の大阪公演も手掛けていた株式会社ヴィレッジの存在、劇団員のテレビ出演、小劇場第3世代を牽引した第三舞台の元プロデューサー・細川展裕の合流などによって得た東西のネットワークの後押しが大きい。

この頃には、「ネタもの」「いのうえ歌舞伎」に加え、生バンドによる演奏の音もの「新感線R」が劇団の柱として定着していた。90年代からは、大手興行会社と手を組んだ大型のプロデュース公演を次々と成功させ、97年上演の劇団の代表作『髑髏城の七人』は東京で1万人を超える観客を動員。豪華なキャスティングと「ネタもの」「いのうえ歌舞伎」「新感線R」の3つの柱を中心とした劇団独自の色で動員を大幅に拡大していく人気劇団へと成長した。

## 3. 関西小劇場出身の劇団 劇団鹿殺し・ヨーロッパ企画

この「つか作品のコピー⇒オリジナル路線への切り換え⇒東京進出⇒劇団の色が評価され動員増加」という劇団☆新感線と同様の流れを辿った劇団が、2000年代に活躍した劇団鹿殺しである。

同劇団は、2000年に関西学院大学に所属していた菜月チヨビ、丸尾丸一郎らによって結成された<sup>7</sup>。第3回公演まではつか作品のコピーを上演していたが、第4回公演「愛世情」から劇場ではオリジナル脚本で正統派演劇を上演し、イベントでは個性的な音楽劇的パフ

オーマンスを披露するというスタイルに切り換える。2005年に神戸から東京に拠点を移したが、当時劇団として順風満帆な歩みを進められていたわけではなく、無名に近い状況からの状況であった。

劇団鹿殺しの座長・菜月チョビが「私たちは、それまで本当に演劇界につながりがなかったもので、そんな事情（筆者注：劇団☆新感線所属の古田新太が関西出身の後輩劇団の推薦文を書かないこと）もまったく知らず、ライブを観にきてくれた古田さんしか頼れる先輩がいなくて、震える手で必死に電話をかけたんです（笑）。」と振り返るように、関西小劇場ブームが去った2000年代に黎明期を過ごした劇団故に、東西のネットワークという後押しを受けることも難しかったようである。

しかし上京以降、3ヶ月に一度の公演活動に週6日の路上パフォーマンス、ライブハウス出演などハイペース且つ劇場内外を問わない活動で高いエンターテインメント性を発揮し動員を伸ばす。2010年には10周年記念公演・第1弾『スーパースター』が第55回岸田國士戯曲賞最終候補にノミネートされ、同年9月には劇団制作部を「株式会社オフィス鹿」として法人化。劇団員の外部活動も更に活発化し、無名時代を過ごした関西でも評価されるほどに人気を獲得していった。

1998年に結成されたヨーロッパ企画も、劇団鹿殺し同様に高いエンターテインメント性と劇団員の外部活動を武器としている劇団である<sup>8</sup>。同劇団は同志社大学の学生劇団「同志社小劇場」に所属していた上田誠、永野宗典、諏訪雅によって結成された劇団内ユニットが劇団から独立する形で結成された。

稽古が始まる段階では台本は存在せず、役者たちのエチュードをもとに登場人物の設定やストーリー、世界観を決めていくという劇団独自の方法は、「SF群像シチュエーションコメディ」や「たと思いついても誰もやろうとはしないこと」を実現した「企画性コメディ」を中心に、他にも実験的な要素を取り入れた遊び心のあるコメディを生み出してきた。

2003年には、大手芸能事務所アミューズの元副社長・出口孝臣から劇団経営のノウハウを学んだ元OMSスタッフの吉田和睦が合流。2005年の第8回公演『サマータイムマシン・ブルース』は観客動員を300人から800人に伸ばし、本広克行監督で映画化もされるターニングポイント的作品となった。ヨーロッパ企画版に引き続き、映画でも脚本は上田がそのまま務めたが、それ以降、上田はテレビドラマや映画、アニメの脚本を手掛けるようになり活躍の場を広げていく。2006年には劇団を法人化して株式会社オポスを設立。2009年、再び本広克行監督により第7回公演『冬のユリゲラー』が映画化されると、2011年から

KBS 京都にて劇団が企画から編集までを手掛けたドキュメンタリーバラエティー「ヨーロッパ企画の暗い旅」がスタート。その後も、10月からNHKのEテレで劇団制作のペープサートドラマ「タクシードライバー 祇園太郎」が放送されたり、翌年2012年には短編コントを収録した「ヨーロッパ企画です。」が各地でオンエアされたりと、劇団の本公演に加えて映像事業にも力を入れた。

また、劇団の活動と並行して劇団員たちは漫画を書いたり iPhone アプリを制作したりと、俳優という枠組みに囚われず活動領域を広げており、劇団としても役者としての能力だけでなくプラスアルファの個性を持った劇団員を求めているという。上田と親交の深い作家・森見登美彦がヨーロッパ企画独特の舞台作りについて、「エチュードは、出演者、舞台装置、その場の雰囲気、その他もろもろの影響を受け、上田氏が意識的にコントロールできるようなものではないだろう。だからこそ思いがけないかたちで発見される「面白さ」があるだろう。それらの断片と断片を響き合わせて、上田氏は一つの理想的な展開を見つけ出す。」と述べているが、その「面白い」化学反応は、こうした劇団員の多様性、クリエイティビティに支えられている。



## 第2章 末満健一と『TRUMP』シリーズについて

### 1. 末満健一のバックグラウンド

末満健一は 1976 年生まれ、大阪府出身の脚本家・演出家・俳優である<sup>9</sup>。幼少期から諦観した人生観を持ち、青春時代の思い出といえるようなものがほとんどない無味乾燥な学生時代を過ごしたが、手塚治虫の『ブラックジャック』に出会ったことをきっかけに漫画やサブカルに興味を持つようになる。少女漫画を愛読していたことから少女漫画家を目指すも、才能に限界を感じ断念。将来を悩んでいた時期に、劇団惑星ピスタチオの作品を偶然目にし、同劇団の門を叩いた。

劇団惑星ピスタチオは、神戸大学演劇研究会「はちの巣座」に所属していた腹筋善之介、西田シャトナー、平和堂ミラノらによって 1990 年に旗揚げされ、1998 年までは佐々木蔵之介も在籍していた劇団である。小道具を使わずパントマイムを多用する「パワーマイム」、一人で何役も演じる「スイッチプレイ」など独自の演出法を確立し、関西の小劇場を中心に活動していた。

末満は熱烈な交渉の後、1995 年頃から制作業務の補助として末席に加わり、2000 年の劇団解散まで役者として活動。その過程で脚本・演出の西田シャトナーにアイデアを提案することもあり、1997 年の『熱闘!!飛龍小学校☆パワード』ではプロット作成の補佐を担った。これらのことをきっかけに自身でも脚本の構想を考えるようになり、劇団解散後に見様見真似で短編集を執筆、演出し、上演。それが評価されたことで作り手としての自信を得ると、作・演出を本格的に始めるようになった。

2002 年、演劇ユニット「ピースピット」を旗揚げし、主宰を務める。2012 年～2017 年には、関西を拠点とした若手俳優集団・劇団 Patch を旗揚げし、総合演出も務めた。以降も、『Equal-イコール-』、『刀剣乱舞』シリーズ、アニメ『ボールルームへようこそ』などの作・演出を務め、活躍の場を広げている。末満の過去のインタビューを参照すると、彼にとって演劇と『TRUMP』シリーズがどのような存在であるかが伺える。

「生きる」という現象が、「生まれる」という現象により始まって「死」という現象により終わるってことが決定づけられている中で、人はそれぞれ楽しんだり、しあわせを望んだりしていますよね。でも僕は、いわゆる「楽しむ」みたいなことをあまり経験したことのない人間で。(中略) そういう「楽しむ」が少ない自分が「死」という現象に対する対抗手段は、演劇しかなかったんですよね。<sup>10</sup>

僕は最終的には死ねてよかったと思いたい。だから TRUMP シリーズでは不老不死者という存在を通して、永遠に生き続ける者が至る境地とおぞましさを知りたいと考えて TRUMP シリーズの脚本にも投影してきました。<sup>11</sup>

つまり、末満にとって演劇は、「生」と「死」に対峙し、やがて訪れる「死」を受容するための手段であるといえる。そして、後述する『TRUMP』の物語内容においても、永遠の命を求め死んでいく者と望まぬ永遠を与えられ者という対比構造が描かれ、「生」と「死」の価値転換が起こっていることから、『TRUMP』シリーズは末満の死生観が色濃く反映されていると言うことができる。

## 2. 『TRUMP』シリーズ主要作品の情報

『TRUMP』シリーズは、それぞれの作品が単独で成立しているながらシリーズ内の他作品との繋がりを持ち、巨大な物語世界を形成していることが特徴である。特に『LILIUM』『SPECTER』『グランギニョル』の3作品は『TRUMP』の中心人物と関係性が深く、シリーズ初期の主要作品として挙げられる。また、いずれの作品も現実世界における場所や時代は特定できないファンタジー作品であるが、『TRUMP』を起点±0年とした時間軸を取ると、『LILIUM』は+3000年、『SPECTER』と『グランギニョル』は-14年の世界が描かれている。以下、主要4作品の物語内容を記す。

### 『TRUMP』

舞台は若き吸血種たちが暮らす全寮制ギムナジウム「クラン」。物語の中心となるのは、周囲から忌み嫌われるダンピール<sup>12</sup>の少年ソフィ・アンダーソンと、そんな彼と階級違いの友情を育む特級貴族のウル・デリコ、教師クラウスの3人。序盤は周囲のソフィに対するダンピール虐めが強調して描かれるが、実はウルもダンピールであり、短命であるという自身の運命に抗うようにして、永遠の命をもつ原初の吸血種 TRUMP に異常なまでの執着を見せるようになっていく。そして、物語終盤、一番の盛り上がりを見せるのが、クラウスの正体が TRUMP であると明かされる場面である。TRUMP を目の前にしたウルは「TRUMP、僕に永遠の命を。TRUMP、お願いだ。僕は、死ぬのが怖いんだ。」と懇願。しかし、TRUMP はそんなウルに目もくれず、TRUMP を拒絶するソフィを無理矢理咬んで不老不死にしてしまう。永遠の命を切望しながら死んでいくウルと、望まぬ永遠を手に入れてしまったソフィの対比は、深い悲劇として観客の心に刻まれる。

### 『LILIUM - リリウム少女純潔歌劇 - 』（以下『LILIUM』）

『TRUMP』がクラウドによって生み出された悲劇だとすれば、『LILIUM』は繰り返される悲劇である。舞台となるのは、吸血種の少年少女が療養するサナトリウム「クラン」。リリーは失踪した友人シルベチカを探すうちに、クランの秘密に触れてしまう。それは、クランで暮らす少女たちがファルスという人物によって不完全ながらも不老不死にされ、不都合な記憶が消されているというもの。そして、そのファルスの正体こそがソフィ・アンダーソンであった。『LILIUM』のみを観劇した人にとって彼の正体は些細なことであるが、『TRUMP』を観劇している人にとっては大きな衝撃となる。彼は永遠を共に生き続ける友を作るため、あれほど憎んだクラウドによる悲劇を繰り返しているのだ。ファルスはリリーに永遠に生き続けることを求めるが、リリーはイニシアチブ<sup>13</sup>で仲間たちを自決させ、自身も死を選ぶことでファルスを拒絶。しかし、既に完全な不老不死の力を得てしまっていたリリーは一人生き残り、かつてのソフィと同じように絶望する。

### 『SPECTER』

物語は、繭期<sup>14</sup>の少年少女たちによる猟奇的殺人事件の捜査にあたる臥萬里らを中心に進んでいく。やがて明らかになる事件の首謀者は、ダンピールのローザ。彼女は短命であるという運命から逃れるため、同族殺しに手を染めたのだった。『SPECTER』を単体の作品として捉えるのであれば、永遠の命を求めるローザが TRUMP に拒絶され、一連の事件の中で臥萬里をはじめとした主要人物全員が死亡する結末に、この物語の悲劇があるといえる。しかし、『SPECTER』を『TRUMP』シリーズの中に位置づけたとき、この作品のもう一つのテーマとなるのは「継承」である。臥萬里らが捜査の中で出会った少年ノームは、瀕死の姉から託された赤ん坊に臥萬里の本名である「ソフィ」と名付ける。『SPECTER』は、『TRUMP』のソフィ・アンダーソンが多くを託され生まれてきた物語でもあったのだ。また、事件の終結後、村で唯一の生き残りとなったノーム自身も、彼を守り無数の刃に貫かれて死んだ臥萬里の名を継承。2人の未来は『TRUMP』へと繋がっていく。しかし、そこで待ち受けているのはあまりに残酷な結末であり、『TRUMP』と『SPECTER』の2つの物語を一層悲劇的にしてしまうのである。

## 『グランギニョル』

『TRUMP』という避けられない悲劇に向かう物語という点において、『SPECTER』と『グランギニョル』はよく似ている。物語の中心となるのは、人間種スー・オールセンを身籠もらせた疑惑により停職処分中の名門貴族ダリ・デリコ。彼は秘密裏に満期少女失踪事件の捜査を進めるが、その首謀者は捜査チームの一員マルコ・ヴァニタスであることが明らかになる。しかし、彼は首謀者であると同時に、スーが身籠もった子どもの父親でもあった。スーが死に際、マルコの本名「ウル」と名付けてダリに託したその子どもは、この物語のクライマックスでイニシアチブにより2つの呪いを掛けられる。1つは「死の影に怯えて生きろ」という呪い。実の父親であるはずのマルコに掛けられたこの呪いは、『TRUMP』でウルが死に怯え、永遠の命を渴望する未来へと続いていく。そしてもう1つは、事件の終結後、ウルを引き取ったダリがマルコの呪いを打ち消すかのように願った「負けるな。負けるな。負けるな。」という呪い。相反する2つの呪いのたどり着く先が、ウルの結末であると同時に『グランギニョル』から続くダリの結末でもあったと知るとき、この悲劇は一層深いものとなる。

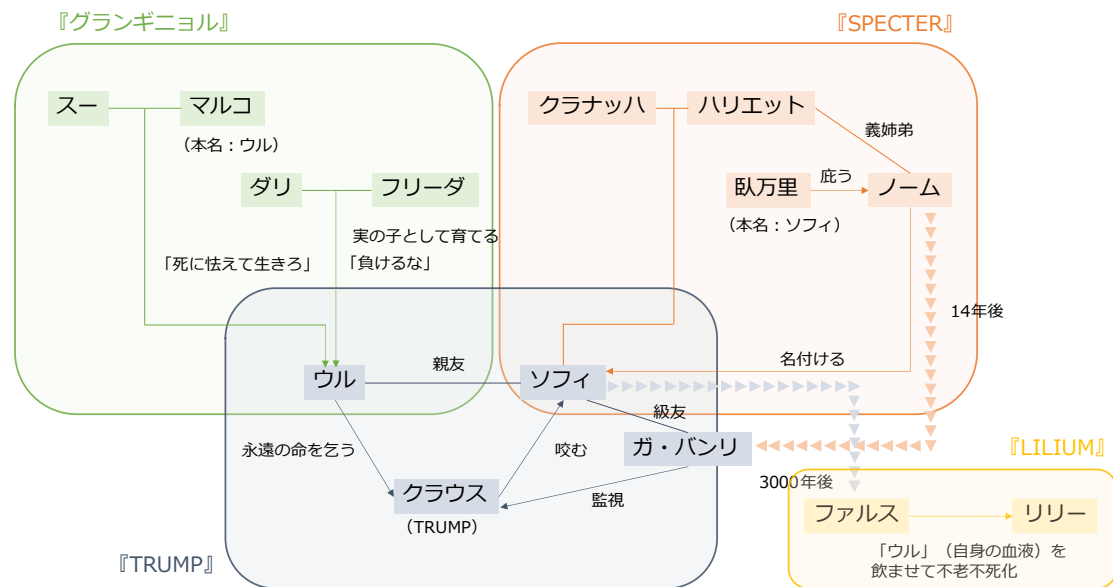


図1 『TRUMP』シリーズの人物相関図

### 第3章 『TRUMP』シリーズのプロデュース手法

#### 1. 『TRUMP』の立ち上げ

『TRUMP』シリーズとは、2009年に上演されたピースピットVOL.10『TRUMP』を皮切りに上演されてきた一連のオリジナル演劇作品の総称である。作・演出を務める末満健一はこのシリーズの上演を「ライフワーク」としており、2023年11月現在まで、計16本（うち1本はイベント内で上演された短編演劇）の演劇作品が上演されてきた。作品によって登場人物や時代は異なるが、いずれも共通して人間種と吸血種が共存する社会を舞台としており、永遠の命を持つとされる吸血種の租「TRUMP」の不老不死伝説が登場人物や物語を動かしていく<sup>15</sup>。

シリーズ初演は前述の通り、2009年に末満が主宰を務める演劇ユニット「ピースピット」のVOL.10として上演された『TRUMP』。キャパシティは約160席全8公演の約1280人であった。この上演の背景には、関西の小劇場ブームが終焉を迎え観客動員が減少傾向にある中で、「作品性」と「商業性」を両立させた作品を作ることで大阪から演劇界を盛り上げたいという末満の思いがあったという<sup>16</sup>。当時、東京では少年ジャンプに掲載されていた漫画「テニスの王子様」を原作としたミュージカル『テニスの王子様』が人気を集め、出演している10代の若い俳優たちも大きな注目を浴びていた。そこで、末満は若くはないベテランの俳優があえて美少年の役を演じるというコンセプトで、『TRUMP』を若い新規客を呼び込めるような作品にすることを狙った<sup>17</sup>。また、公演ごとに役者が役を交換し、様々な組み合わせで演じるという仕掛けが導入されており、これは以降再演される『TRUMP』において正規キャストによって演じられる「TRUTH」バージョンと、対となるキャラクターを2人の役者が役を入れ替えて演じる「REVERSE」バージョンに編成され引き継がれていく<sup>18</sup>。

そして、この初演『TRUMP』が好評のうちに幕を閉じた2年後の2012年、ピースピットVOL.16『TRINITY THE TRUMP』として再演。キャパシティは約200席全12公演の約2400人で、初演の約2倍となった。物語の内容は2009年版と同様である。ただし、ピースピットは特定のメンバーを持たず、作品ごとにキャストを集めるプロデュース形式を採用しているため、キャストは一部を除いて変更されている。また、この公演では前述の「TRUTH」「REVERSE」の他に、女性キャストだけで演じられる「FEMALE」バージョンが上演された。このバージョンのみ役名や設定が異なっており、TRUTH/REVERSEのパラレルワールド的世界が描かれている<sup>19</sup>。

## 2. 2.5次元舞台の勃興と『TRUMP』

2013年には、ピースピットの枠を飛び出し、ワタナベエンターテインメント主催でDステ12th『TRUMP』として2度目の再演。Dステはワタナベエンターテインメント所属俳優によるユニットD-BOYSが上演する演劇公演であり、『TRUMP』ではD-BOYSの弟ユニットD2が初めてメンバー総出演したことで話題を呼んだ<sup>20</sup>。この公演で『TRUMP』シリーズは初の東京公演を達成。大阪では追加公演も急遽実施され<sup>21</sup>、14000人を動員する大型公演となった。

ここで特筆すべきは、出演したD2のメンバーに漫画やアニメを原作とした2.5次元舞台の出身者が多かったということである。16名のキャストのうち12名はミュージカル『テニスの王子様』（2003年～）とミュージカル『忍たま乱太郎』（2010年～）のいずれか、もしくは両作品に出演経験があり、西井幸人はミュージカル『黒執事』（2009年～）で主演を務めていた。他にも、舞台『華鬼』（2010年～）やVISUALIVE『ペルソナ4』（2012年～）の出演経験があるメンバーも含めると、計14人が2.5次元舞台の出身者である<sup>22</sup>。

漫画やアニメを原作とした舞台作品は、宝塚歌劇団によるミュージカル『ベルサイユのばら』（1974年～）や、ロングランを果たしたミュージカル『美少女戦士セーラームーン』（1993年～）、SMAP主演のミュージカル『聖闘士星矢』（1991年）などがあったが、それが「2.5次元舞台」というひとつのジャンルとして認識されるようになったのは、2003年からスタートしたミュージカル『テニスの王子様』（以下『テニミュ』）による功績が大きい<sup>23, 24</sup>。この舞台に出演していたのはその多くが『テニミュ』で初舞台を踏むキャリアの浅い俳優でありながらも、彼らの成長がキャラクターの成長と重なっていく瞬間は多くの観客の心を惹き付けた。

以降、アニメでは脇役だったキャラクターを主演として描いたミュージカル『忍たま乱太郎』（2010年～）や、自転車ロードレースを描いた舞台『弱虫ペダル』（2012年～）、恋愛アドベンチャーゲームを舞台化したミュージカル『薄桜鬼』（2012年～）などをはじめとした2.5次元作品が次々と誕生している。2.5次元舞台のタイトル数と市場規模の推移（図2）を見ても、2000年代後半頃からタイトル数、市場規模ともに少しずつ伸び始め、『テニミュ』1stシーズンが終了した2010年と東日本大震災が発生した2011年、新型コロナウイルスによる影響があった2019年、2020年こそ一時的な落ち込みがあるものの、右肩上がりの成長が続いている。

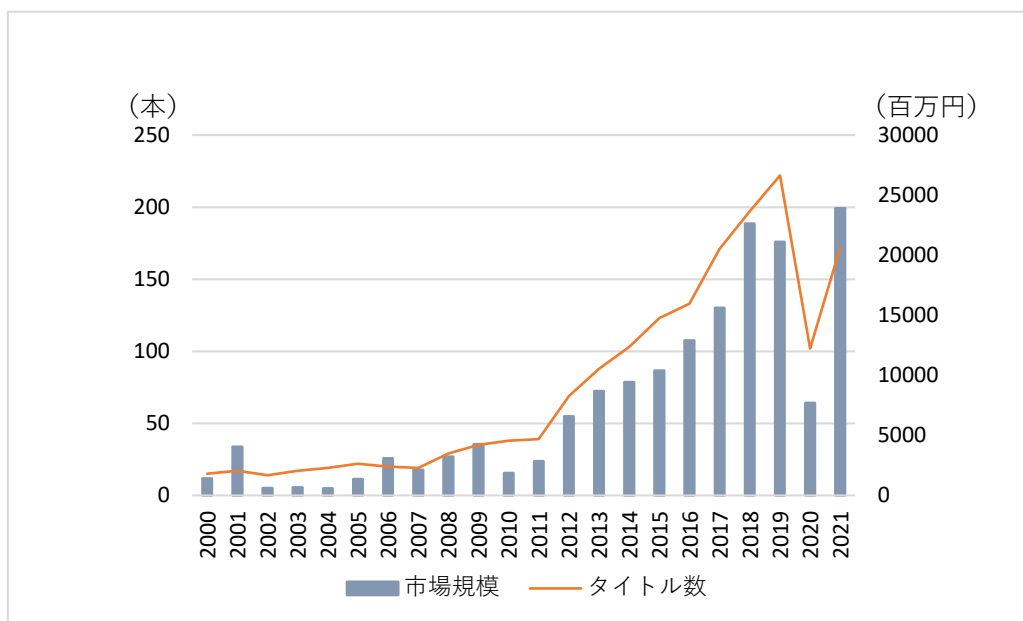


図2 2.5次元舞台のタイトル数と市場規模の推移<sup>25</sup>

こうした背景を踏まえると、Dステ12th『TRUMP』が上演された2013年は、ちょうど2.5次元舞台というジャンルが定着して広がりを見せるようになってきた頃にあたり、また、2012年にスタートした舞台『弱虫ペダル』で演出を務めた西田シャトナーが、

(筆者注：2.5次元舞台に出演する俳優のファンたちは)裕福ではなくともパトロンになる覚悟さえあるほどの、もしかするとこの一〇〇年存在しなかった観客たちなんですよ。(中略)『テニミュ』はそういう得がたい存在を生み出した。『弱虫ペダル』がそういうお客さんに応援された役者たちの参加によってスタートできたのは事実です。<sup>26</sup>

と語るように、キャストと観客の信頼関係という「2.5次元舞台の土壌」が育まれていた時期でもあったといえる。

また、図3は『TRUMP』シリーズで推定される観客動員数の推移をグラフにしたものである。推定観客動員数は各上演劇場の座席数×公演数で算出した。

このグラフからは、関西の小劇場のみで公演を行った初演、再演は1000～2000人程度の動員数であったが、Dステ12th『TRUMP』、『LILIUM』では一気に規模を大きくしていることが分かる。シリーズはそれ以降、毎公演15,000人程度を動員し、高い観客動員数を保って

いる。ただし『SPECTER』と『COCOON』、『黒世界』は例外を構成し、『SPECTER』の推定観客動員数は著しく低く、他の二作は逆に大きい。

『SPECTER』については出演した劇団のコンセプトに合わせ、敢えて小劇場公演を行ったことが原因と考えられる。『COCOON』『黒世界』については、公演期間中、2つの物語を交互に上演しており、推定観客動員数はそれらを合算した数値となっているため、30,000人近い動員があったと考えられる。また、正確な座席数や視聴者数が把握できないため、推定動員数には含めなかったが、『マリーゴールド』『COCOON』ではライブビューイングが、『黒世界』『ヴェラキッカ』『LILIUM』（再演）では streaming 配信が行われており、以上の5作品については、実際の数値はグラフで示したものを上回っていると推測される。

これらを踏まえると、D ステ 12th 『TRUMP』の成功が『TRUMP』シリーズの動員数のスタンダードを引き上げたと言っていいだろう。そして、『COCOON』ではシリーズ最高動員数（推定）となるが、この作品にキャスティングされていたのも、14名中11名がミュージカル『テニスの王子様』に出演経験のあった安西慎太郎や荒木宏文（現芸名・新木宏典）、D ステ 12th 『TRUMP』に出演した三津谷亮、陳内将をはじめとした2.5次元舞台出身の俳優であった<sup>27</sup>。この2012年のD ステ 12th 『TRUMP』から2019年の『COCOON』への動員数の伸びは、シリーズとして積み重ねてきた人気の表れであると同時に、2.5次元舞台の市場規模の伸びとも重なる。



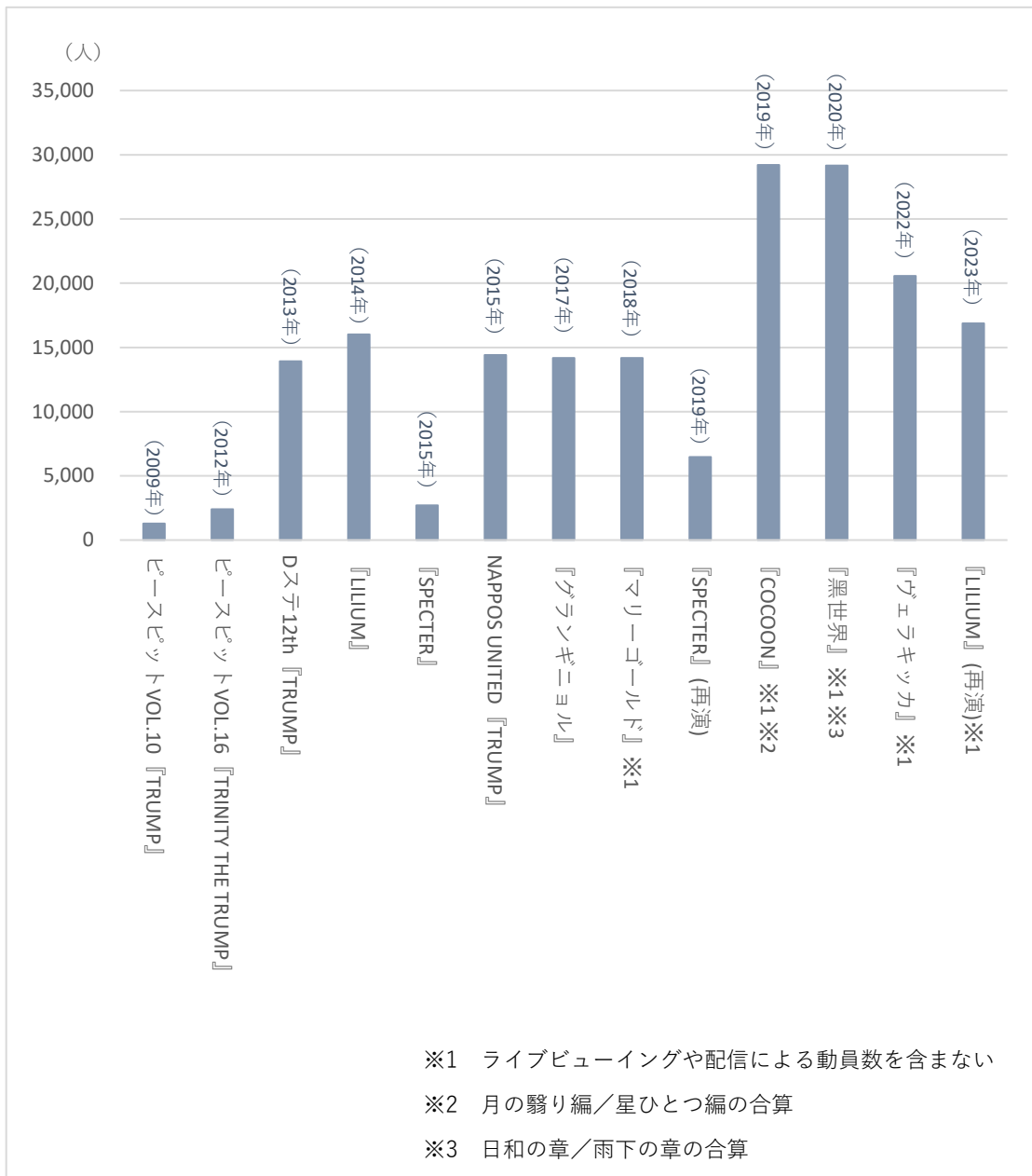


図3 『TRUMP』シリーズの推定動員数の推移<sup>28</sup>

したがって、Dステ12th『TRUMP』が2.5次元舞台という新たなジャンルが定着、拡大していくタイミングで2.5次元舞台出身の俳優を起用し、ブームを取り入れたことは、作品の成功、ひいてはシリーズの成功の要因の1つになっていると考えられる。

### 3. 女性アイドルグループの舞台出演と『LILIUM』

2014年には、演劇女子部ミュージカル『LILIUM - リリウム少女純潔歌劇 - 』が、アップフロントグループ系列の芸能事務所に所属している女性アイドル集団「ハロー!プロジェクト」のメンバーの出演する舞台作品シリーズ「演劇女子部」の第3弾として上演された。主催はワタナベエンターテインメントからBS-TBS、オデッセイに変わっており<sup>29</sup>、末満がプロデュースの中心となることで興行主を跨いでシリーズが展開した。東京、大阪の2都市公演を行い、特に大阪公演はDステ12th『TRUMP』から約1200人伸ばした約3090人のキャパシティで臨んだ。当初は『TRUMP』の世界観だけを拝借した別作品という形で宣伝されていたが、物語終盤に『TRUMP』との繋がりが示されたことで、『TRUMP』は焦点化する人物を変えながら様々な時系列によって多面的に描かれるシリーズとなっていく<sup>30</sup>。

この作品の特徴は、前述の通りキャスト全員が女性アイドル、且つ同じユニットで活動しているメンバーによって演じられたという点であるが、こういった女性アイドルグループが舞台に出演する動きは2000年代頃から少しずつ広がってきていた。『LILIUM』が上演された2014年以前にデビューした女性アイドルグループ<sup>31</sup>計17組の出演舞台数(図4)を見てみると、2000年代から舞台出演の動きが見られ、2010年代からは大きく増加の傾向を辿っていることが分かる。

また、特殊な演劇上演形態であるため上記の括りには入れなかったが、演劇とライブを掛け合わせたパフォーマンスを行う東京パフォーマンスドールが2013年にデビューした<sup>32, 33</sup>ことも、2000年代の女性アイドルグループによる舞台出演ブームを象徴していると言えるだろう。なお、また、1980年代に活躍し大人数のグループアイドルの先駆けとなったおニャン子クラブの舞台出演は確認できず、その後1997年のモーニング娘。デビューまではアイドル氷河期と呼ばれる時代に突入し、アイドル文化自体が下火となっていたため舞台出演が無かったものと思われる。

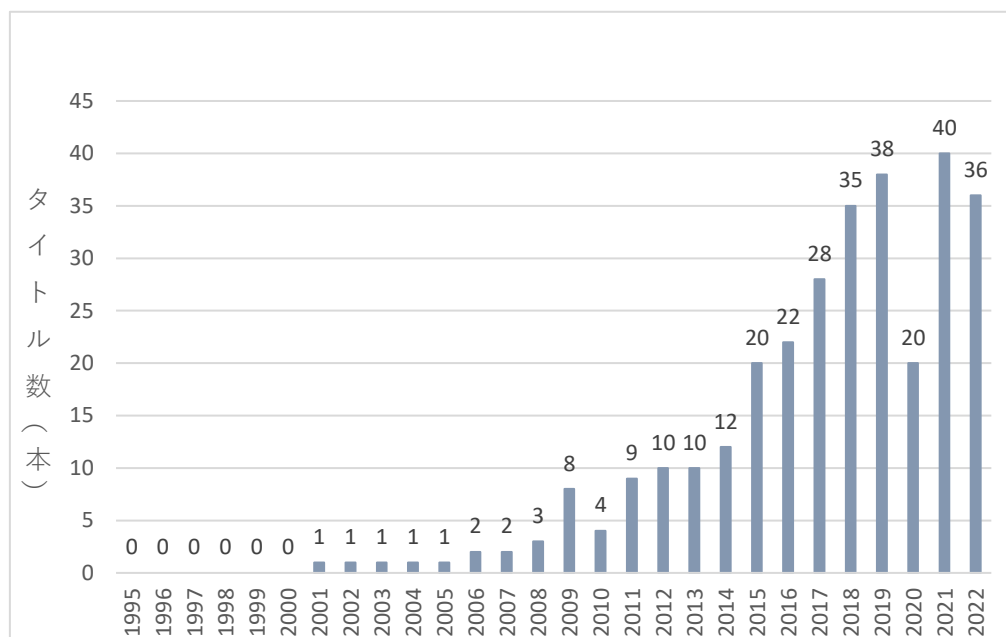


図4 主な女性アイドルグループによる出演舞台数の推移<sup>34</sup>

『LILIUM』のキャスティングは、この女性アイドルグループによる舞台出演のブームを踏まえたものであり、アイドルファンという新たな観客層を開拓したという点において、Dステ 12th 『TRUMP』に続く2つ目の転機となった。そして、それを可能にしたのは、脚本家、演出家である末満が中心となることで、複数の興行主を跨ぎ、作品を展開できるようにするというプロデュース方法であり、ここに『TRUMP』シリーズの展開の上手さがあると言える。

#### 4. 『SPECTER』以降の舞台作品

2015年には、関西版D-BOYSとして2012年に結成された劇団Patchが、Patch stage vo. 6 『SPECTER』を上演。主催は再びワタナベエンターテインメントが担った<sup>35</sup>。末満は旗揚げから劇団Patchに携わっており、『SPECTER』以前の作品は1作品を除いて全て作（劇団惑星ピスタチオ作品の潤色含む）・演出を務めている<sup>36</sup>。「演劇で大阪を元気にしたい！」という考えのもと活動していたためか、これらの作品は全て大阪の小劇場で上演されており、『SPECTER』も大阪のみ且つ小劇場規模の公演となった。

また、同年、2014年に上演された『LILIUM』の感謝祭の中で短編演劇「二輪咲き」が上演された<sup>37</sup>。キャストには『LILIUM』に出演したメンバーに加え、同じハロー!プロジェクト内のメンバーが数人加わっている。

さらに、同じく 2015 年は 3 度目の再演となる NAPPOS UNITED『TRUMP』を上演。主催は NAPPOS UNITED、ぴあ（以上東京公演）、Zepp ブルーシアター六本木運営委員会、関西テレビ放送、サンケイホールブリーゼ（以上大阪公演）<sup>38</sup>で、『TRUMP』は LOTUS(2009 年版・2011 年版)→ワタナベエンターテインメント(2012 年版)→NAPPOS UNITED など(2015 年版)と 3 つ以上の興行団体を渡り歩いたこととなる。キャパシティは東京、大阪を合わせて約 14400 人。『TRUMP』『LILIUM』と同等の規模感で臨んだ。物語の内容は、シリーズの展開を踏まえて一部加筆。物語性を重視した作品とするために過去 3 回の上演ではふんだんに取り入れられてきたギャグ要素は大幅にカットされた。キャストも一新されたが、唯一 2012 年版から陳内将が出演している<sup>39</sup>。

2017 年は、再びピースピットによる公演としてピースピット 2017 年本公演『グランギニョル』が上演された。ただし、主催は 2009 年版と 2011 年版のピースピット公演の主催 LOTUS ではなくワタナベエンターテインメントが担っている<sup>40</sup>。この公演以降、同社が全て主催を担っている。この公演ではシリーズを通して初めて東京、大阪の 2 都市で追加公演が実施された。

2018 年は、ミュージカル『マリーゴールド』を上演。『グランギニョル』と同様に、東京、大阪で追加公演が実施され、加えて全国 9 都市 12 館でライブビューイングも開催されるほどの盛況ぶりであった<sup>41</sup>。

2019 年は『TRUMP』シリーズの 10 周年を記念し、劇団 Patch が Patch×TRUMPseries 10th ANNIVERSARY『SPECTER』を再演。2015 年版『SPECTER』は大阪公演のみであったが、こちらの公演は東京、大阪の 2 都市公演に拡大した<sup>42</sup>。

同じく 2019 年、『COCOON 月の翳り星ひとつ』を上演。月の翳り編と星ひとつ編に分かれており、交互に上演された。宣伝時に発表されていたのはキャスト名のみで初日まで配役が明かされなかった<sup>43</sup>にもかかわらず、10 万枚を越えるチケットの申込みが殺到<sup>44</sup>。東京、大阪での追加公演は勿論のこと、全国 9 都市 14 館でライブビューイングも開催された<sup>45</sup>。

2020 年は、複数の作家が 1 つの世界設定を共有して創作するシェアードワールドの手法を用いた新たな試みとして shared TRUMP シリーズ 音楽朗読劇『黒世界 ～リリーの永遠記憶探訪記、或いは、終わりなき繭期にまつわる寥々たる考察について～』が上演された。当初上演予定であった新作ミュージカル『キルバーン』が新型コロナウイルス感染症の影響で延期となり、急遽音楽朗読劇形式の『黒世界』の制作が決定した<sup>46</sup>。脚本には末満以外に計 6 名が参加しており、いずれも末満が執筆を依頼した作家である。「雨下の章」と「日和の章」の二つの物語が同時に上演された。

2022年にはミュージカル『ヴェラキッカ』を上演。シリーズが展開を重ね『TRUMP』との繋がりをもつ作品が増えていく中で、敢えてシンプルなストーリーでまとめた<sup>47</sup>。

翌年2023年は、『TRUMP』シリーズ15周年を記念して2014年に上演した『LILIUM』がキャストを一新し『LILIUM - リリウム新約少女純潔歌劇 - 』として再演される。キャストは全てオーディションによって選ばれた<sup>48</sup>。アフタートークイベントでは2015年の『LILIUM』の感謝祭内で上演された短編演劇「二輪咲き」が再び上演された<sup>49</sup>。

## 5. 舞台以外の作品展開

舞台作品以外で『TRUMP』シリーズが展開したのは、2015年に上演された『SPECTER』の公演パンフレットに短編小説『ドナテルロ回顧録』が掲載されたのが最初の例である<sup>50</sup>。2020年には『TRUMP』のコミカライズがヤングエースにて連載を開始<sup>51</sup>。2024年には新作アニメ『デリコズ・ナーサリー』の放送が決定しており<sup>52</sup>、演劇公演、小説、漫画に続く新たな展開となる。

また、物語内容に直接の関わりは無いが、2018年に「繭期夜会」と称したコンサートが開催されており、翌年2019年にも『TRUMP』シリーズ10周年の締めくくりとしてTRUMPseries 10th ANNIVERSARY FINAL『繭期大夜会』が開催されている<sup>53</sup>。

## 第4章 X (旧 Twitter) 分析

### 1. 分析の手法

第3章では、『TRUMP』シリーズの作品展開を辿り、シリーズが複数の興業主や媒体を跨いで作品を展開するプロデュース手法で観客層を拡大させてきたことについて述べてきた。第4章では、そのファンがどのような人で構成されていたのか、その実態を明らかにするため、X (旧 Twitter) でファンの言説を検証し、考察する。

考察にあたっては、X(旧 Twitter)上でピースピット VOL.10 『TRUMP』、ピースピット VOL.16 『TRINITY THE TRUMP』、D ステ 12th 『TRUMP』、『LILIUM - リリウム少女純潔歌劇 - 』に関するポストを収集し、必要に応じてユーザーローカル社が提供するテキストマイニング<sup>54</sup>を用いた調査を行った。上記の4作品を対象としたのは、これらに関西小劇場、2.5次元舞台、アイドルという異なる3つのフィールドで上演されている作品であるにもかかわらず、特に後二者は動員を大きく伸ばし、シリーズ拡大の転機となったためである。この時期の作品に対するファンの言説を分析することで、シリーズのファン獲得の流れが明らかになると期待できる。

まず、ポストの検索方法については、再演、D ステ版は「TRUMP」、『LILIUM』は「LILIUM」を検索ワードとし、これらのワードについては小文字表記やカタカナ表記でも可とした。今回の調査は観客が作品をどのように受容しているかを知ることが目的であるため、検索で表示されたポストのうち、内容から『TRUMP』あるいは『LILIUM』を話題にしていることが明確であるポストのみを分析対象とし、出演者や公演関係者のポスト、定期投稿機能を利用したチケット譲渡の呼びかけや観劇予定の共有、チケットの申込みや当選落選、発券の報告、初日や千秋楽を祝うことを目的としたポストは分析の対象外とした。

次に、対象期間に関しては、作品に関する投稿が重大なネタバレを含むことを考慮し、未観劇の層への配慮として公演終了まで投稿を控える、あるいは物語の核心に迫る内容は避ける動きが見られたため、対象期間をそれぞれ公演初日から公演終了1ヶ月後までとした。具体的には以下の通りである。

- ・ ピースピット VOL.10 『TRUMP』 2009/11/18～12/22
- ・ ピースピット VOL.16 『TRINITY THE TRUMP』 2012/1/22～2/30
- ・ D ステ 12th 『TRUMP』 2013/1/23～3/10
- ・ 演劇女子部ミュージカル『LILIUM - リリウム少女純潔歌劇 - 』 2014/6/5～7/21

また、テキストマイニングの使用にあたっては、役者の呼称は名字に、グループ名は正式名称に、正規のキャストによって演じられるバージョンを指す「TRUTH」「truth」「トゥールズ」「T」「t」「T 版」と、対となるキャラクターを 2 人の役者が役を入れ替えて演じるバージョンを指す「REVERSE」「reverse」「リバース」「R」「r」「R 版」、オールフィメールで演じられるバージョンを指す「FEMALE」「female」「フィメール」「F」「f」「F 版」は、それぞれ「TRUTH」「REVERSE」「FEMALE」に統一した。また、「○○しちゃう」「笑」といった口語的表現や「○○ちゃん」などの敬称はストップワード（＝出現頻度は高いが解析において内容との関連性を持たない単語）として除外語設定を行った。

## 2. 分析結果と考察

### ピースピット VOL. 10 『TRUMP』 / ピースピット VOL. 16 『TRINITY THE TRUMP』

ピースピット VOL. 10 『TRUMP』については、上記の分析手法において分析対象外とするポストを除外すると、抽出できたポストはわずか 4 件であり、分析に十分な量のポストを得ることができなかった。ただし、日本版の X (旧 Twitter) がサービスを開始したのは 2008 年 4 月であるため<sup>55</sup>、2009 年の初演時に一般に十分に浸透していなかった可能性は否定できない。

しかし、続くピースピット VOL. 16 『TRINITY THE TRUMP』では抽出できたポストが 482 件に増加しており、さらに初演では 160 席×全 7 公演=1120 人のキャパシティだったものが、再演では 200 席×全 12 公演=2400 人とほぼ倍になっていることから、初演から再演にかけて『TRUMP』が人気を伸ばしていったことは明らかである。

そこで、上記の調査に加え、初演から再演の間（2009/12/18～2012/1/21）に投稿されたポストを同様の方法で抽出すると、278 件のポストを得ることができた。月ごとに投稿されたポスト数を集計したものが図 5 である。

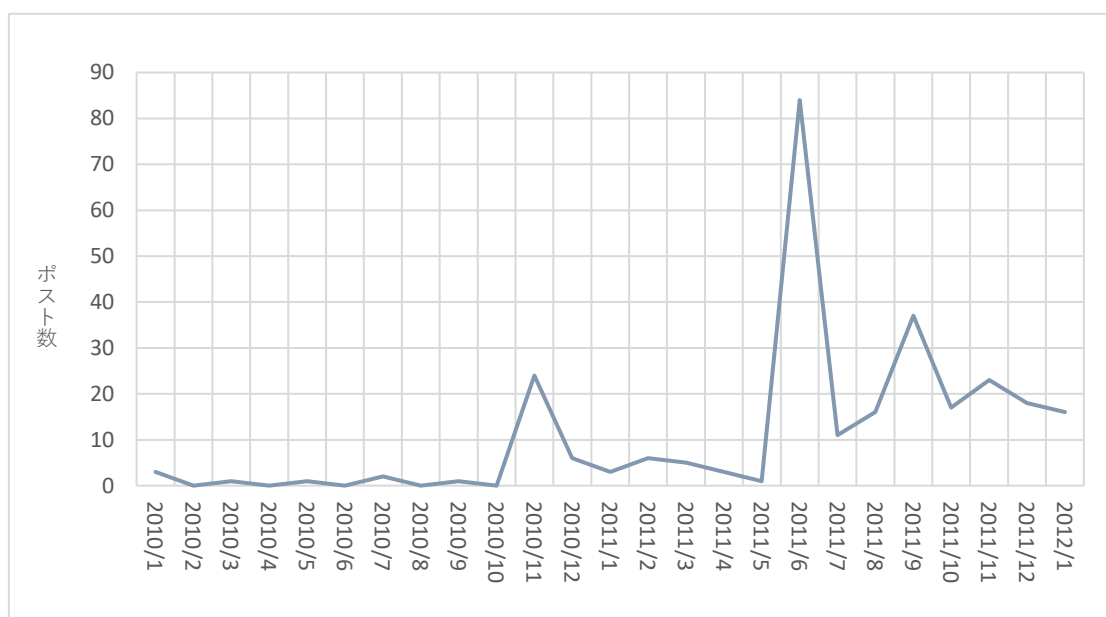


図5 抽出できたポスト数の推移 (対象期間：2009/12/18～2012/1/21)

ここグラフからは、①2010年11月、②2011年6月、③2011年9月の3つの期間にポスト数が大きく増加していることが分かる。①の期間については、11月12日～11月14日の日程でピースピット VOL. 13『有毒少年』が上演されており<sup>56</sup>、その際会場で『TRUMP』のDVDが販売されていたことからポスト数が増加したものとみられる。②の期間には、6月9日に『TRUMP』の再演となるピースピット VOL. 16『TRINITY THE TRUMP』の上演とキャストオーディションの情報が解禁され<sup>57</sup>、さらに6月13日から6月17日の5日間には、動画共有サービス Ustream にてピースピット VOL. 10『TRUMP』を含むピースピットの過去作品を無料連続上映するという企画が展開された<sup>58</sup>ことで、初演から再演にかけての期間で最も大きな盛り上がりを見せた。③の期間には、9月10日に『TRINITY THE TRUMP』のキャストが発表され<sup>59</sup>、それに言及するポストが増加している。

以下は実際に投稿されたポストの一部である。

姉宅で TRUMP を布教してる。ぶんめいばんざい。あとで DVD も貸そう。<sup>60</sup>

わたしの TL に今回の UST 初見で TRUMP の DVD ほしいと言ってるひとが 4 人いる。全員が (たぶん) 非演劇クラスタ。<sup>61</sup>



これらの投稿からは、DVD や動画配信が、再演までの期間に初演の思い出を振り返ったり、自身が観劇したバージョンとは異なる上演形態を楽しんだりするために個人の範囲で利用されていただけでなく、人に貸す、Ustream での配信を勧めるといった作品を拡散するためにも用いられていたことが分かる。そして、それを受けて初演を観ていない層が DVD や動画配信で『TRUMP』を初めて視聴するという動きも一定数あったようである。以上の結果から、初演から再演にかけての期間には、こうした DVD 販売や動画配信を通して口コミが広がっており、『TRUMP』の人気拡大の手助けとなっていたと思われる。

また、この期間に投稿された 278 件のポストが言及している内容のうち、最も多かったのは『TRINITY THE TRUMP』に関する内容で 97 件であったが、それに次いで多かったのは、『TRUMP』以外のピースピット作品や小劇場作品、『TRUMP』に出演したキャストが出演した他作品に関する内容で 72 件であった。こうした投稿は、ピースピットやその公演に出演した役者のファン、あるいは小劇場演劇のファンによって投稿されたものであると考えられ、初演から再演にかけて『TRUMP』という作品の人気を下支えしていたファンの中には、普段からピースピットをはじめとした小劇場演劇に慣れ親しんでいた層が一定数存在していたことが伺える。

次にピースピット VOL.16 『TRINITY THE TRUMP』の公演初日から公演終了1ヶ月後までの期間に抽出できたポスト数は 482 件であった。

投稿に含まれる単語の出現頻度は、検索ワードとして設定した「TRUMP」の 588 回を除くと、会場となった「hep」(hal1)が 239 回、正規のキャストによって演じられるバージョンを指す「TRUTH」が 228 回、対となるキャラクターを 2 人の役者が役を入れ替えて演じるバージョンを指す「REVERSE」が 97 回、主催の「ピースピット」が 93 回、オールフィメールで演じられるバージョンを指す「FEMALE」が 79 回という結果となった(表 1)。

表 1 『TRINITY THE TRUMP』における単語の出現頻度

単語	出現回数
「hep」	239
「TRUTH」	228
「REVERSE」	97
「ピースピット」	93
「FEMALE」	79

「TRUMP」を除く上位 5 単語のうち 3 単語が上演形態に関する語であり、名詞に係る動詞の解析結果においても「バージョンー観る」という組み合わせが 10 回の出現でトップの頻

度であったことから、ピースピット VOL. 16 『TRUMP』においては、「TRUTH」「REVERSE」「FEMALE」という三つの上演形態が観客の間で注目されていたと考えられる。以下は、実際に投稿されたポストである。

TRUMP 今日で TRF と全バージョン見ました。男性陣はリバーキャスト形式だけど、ただ単にキャストを入れ替えただけじゃなく人物設定などが違ったりで飽きさせない。どれが好きかと聞かれたら困るぐらいにみんな素敵でした。個人的に半リバーキャスト見れないのが残念だー！ #hep\_trump<sup>62</sup>

これらの内容からも、観客らが複数回観劇した上でバージョンの違いを楽しんでいることが伺える。1つの役に対して2人の俳優が割り当てられるダブルキャストを採用する公演はよくあるが、互いに役を入れ替えて演じるという「REVERSE」のシステムは非常に画期的なものであり、これらの仕掛けは、対となるキャラクター同士の関係性をより鮮明に描き出すという物語的な効果を生んだだけでなく、リピーターの獲得にも繋がったと考えられる。

また、物語の主演となるキャラクター名「ウル」「ソフィ」とそれを演じた役者名「宇保」「甲斐」、物語の最後に TRUMP であることが明かされるキャラクター名「クラウド」とそれを演じた役者名「赤星」「山浦」を対象に、一文の中に単語のセットが同時に出現した回数を示す共起回数を見ると、5回以上共起されたもののうち最も多いのは「クラウドー赤星」と「クラウドー山浦」の22回で、次いで「赤星ー山浦」の16回、「ソフィーウル」の15回、以下「ソフィークラウド」「ウルー甲斐」「ウルークラウド」と続いた。二桁以上の共起回数を記録した4つの組み合わせのうち、上位3つがキャラクター名と役者名、あるいは役者名の組み合わせである。当然のことながら舞台上では役者名ではなくキャラクター名で呼び合うため、観客が知り得るのは後者のみである。それにもかかわらず上記のような結果となったのは、作品を観劇する前から出演している役者に関心のあった人、あるいは観劇後に役者名を調べた人が存在したからであり、いずれにしても『TRINITY THE TRUMP』を観劇した観客は「誰が」演じているのかを意識していたと言える。初演から再演までに確認できた『TRUMP』の観客の中に、普段からピースピットをはじめとした小劇場演劇に慣れ親しんでいた層が存在したことは既に述べたが、ピースピット VOL. 10 『TRUMP』に関する調査においても、こういった層が役者に期待する傾向が確認できた。

## D ステ 12th 『TRUMP』

抽出できたポストは約 2,700 件であった。

単語の出現頻度は、検索ワードとして設定した「TRUMP」の 2,909 回を除くと、出演メンバーである「D2」の 399 回、「DVD」の 320 回、「舞台」の 308 回、「REVERSE」の 302 回、「TRUTH」の 294 回が上位 5 位までに並ぶという結果となった（表 2）。

表 2 D ステ 12th 『TRUMP』における単語の出現回数

単語	出現回数
「D2」	399
「DVD」	320
「舞台」	308
「REVERSE」	302
「TRUTH」	294

『TRINITY THE TRUMP』と同様に、団体名や上演形態に関するワードである「TRUTH」「REVERSE」を含むポストが多く投稿されていることが分かる。主な相違点としては、「hep」と「FEMALE」が上位から外れ、替わって「DVD」と「舞台」というワードが新たに加わったことが挙げられる。

再演のみ上位に見られた「hep」「FEMALE」については、前者は再演が上演された劇場の名称であるため、後者は D ステ版が「FEMALE」の代わりに TRUTH と REVERSE 混在の配役で上演する「MARBLE」を上演しており、その「MARBLE」も東京・大阪で各 1 公演の上演のみであったため、上位の出現回数として挙がらなかったと考えられる。ただし、すでに述べたとおり「TRUTH」「REVERSE」は出現回数が多かったことから、初演・再演に引き続き、D ステ版『TRUMP』でも配役を変えて行う 3 つの上演形態が観客の間で注目されていたことは明らかである。

また、新たに上位に挙がった「舞台」については、共起された単語のうち上位 3 つの組み合わせを見てみると、「TRUMP-舞台」が 158 回、「舞台-観る」が 103 回、「D2-舞台」が 72 回となった。上位 2 つは『TRUMP』が舞台作品である以上、出現しやすい組み合わせであったと推測できるが、「D2-舞台」の組み合わせは第 3 章でも述べたとおり D2 メンバーが初めて総出演したことが影響しているとみられる。初演、再演でも観客の関心は役者に集まる傾向があったが、再演と D ステ版のキャスト名の出現頻度を比較すると、5 回以上の出現回数があったのは、再演時ではキャスト 29 名中 9 名であったのに対し、D ステ版ではキャスト 16 名全員に増加している。また、全ポストにおける順位が D ステ版ではほと

んどのキャストにおいて再演時のキャストの順位より高くなっていることから、D ステ 12th 『TRUMP』は初演・再演に比べて、より役者に対する注目が集まった公演だと言えることができるだろう。

また、初演時や再演時には見られなかった内容のポストの中で特に目立ったものとして、以下のようなものがあった。

ちくしょう布施のせいで←金が無い。なんか忍ミュ<sup>63</sup>キャストの次の仕事全部追っかけてる気がするぞ…。鯛ちゃん末野さん、アッキー樋口君、布施←、流司君コージ君、それにツアーもし追加募集したら申込み気味でいるぞ…！あと TRUMP ももう一回観る気味でいるし。まさに火の車。<sup>64</sup>

ペダル<sup>65</sup>のチケット結構動き始めてますねえ…増やしたいけど日程的に無理。忍ミュ 3回で我慢したけど TRUMP 我慢出来なくて結局5回になりそう。今日も行きます←<sup>66</sup>

他の舞台との公演日程の被りや金銭面を心配するこれらのポストからは、D ステ 12th 『TRUMP』の観客が同時期に複数の舞台を観劇していることが伺え、他にも観劇する前からチケットを複数枚購入していたり、チケットの取引を呼びかけていたりということからも、舞台俳優を応援することの熱量や消費意欲が非常に高いファンであることが分かる。単語の出現頻度の調査において「DVD」が新たに2位に加わったのもこうした熱量の表れであると見ることができ、実際に、D ステ 12th 『TRUMP』のDVDは公演初日から7日後の2013年1月30日の時点でAmazonのDVD演劇部門とステージ全般の売れ筋ランキング、1位・2位を獲得している<sup>67</sup>。

ただ、こうしたファンによる役者の演技や役者個人に対する賞賛の声が大きかった一方で、一部では下記のような投稿も見られた。

開始 10 分「え…この劣化ジャニみたいな歌と踊り&棒読み演技+滑りギャグ 2 時間半？勘弁してよ」→作中で「この後 25 分後～の展開に云々」本当に 25 分後からの急展開→薄々気付いてた Trump 正体バレ。切なくて哀しくてうっかりほろりと来そうに→駆け足でエンディング→うっかり DVD 予約。<sup>68</sup>

このように、D2 のメンバーの演技や歌、ダンスは「アイドルっぽい」と形容されることもあり、2.5 次元舞台に出演するキャリアの浅い俳優と同様、俳優として未熟な部分があることは否めない。俳優たちもこのことには自覚的であり、千秋楽では自身の實力不足に対する苦悩を語ったキャストもいたという。しかし、ファンたちはそれでも俳優たちをある種盲目的に応援し続け、推している俳優が端役しかもらえなければ俳優と同じように悔しがる。以下は実際に投稿されたポストである。

たぶん誰にも言ったこと無いけど、わたし祥太郎好きなんですよ。後輩会の時にすごく惹かれて。だから TRUMP キャスティング発表されたとき、モローとアンサンブルで悔しかった。でも彼はもっともっと苦しくて悔しかったんだよね。祥太郎のモローのセリフ、すごく胸に刺さりました。<sup>69</sup>

こうした俳優の未熟さを含めて応援する姿勢は、第3章で言及した『テニミュ』が生み出した俳優と観客の信頼関係という土壌の上に成り立つものである。そういった意味でもD ステ 12th は 2.5 次元舞台の発展と連動していたということができ、俳優の未熟さを含めて応援する姿勢や舞台に通い詰める熱量、消費意欲の高さこの作品のファンの特徴として挙げられるだろう。

また、出演しているキャストを目当てに観劇しているファンが多かった一方で、脚本に対する感想やストーリーの考察をしている投稿も 992 件確認できた。中でも特に目立ったのは、以下のような投稿である。

陳しゃん<sup>70</sup>だっけ、TRUMP 一度見じゃわかりづらい内容かもしれないって言ってたの、それ聞いて、凄いわかりやすいお話だよ！って一回見て思ったんだけど、間違ってた。見るほど発見だらけで、見るほど謎と苦しみが増えていく。そしてもう見たいんだけど…わたしの頭の中だけではうまく紡げなくて。<sup>71</sup>

このような投稿からは、複数回観劇しているファンの中に、2 回目以降の観劇の方が得るものが多かった、ストーリーについて考えさせられたと感じている人が多かったことが伺える。未満は『TRUMP』について「物語・人物の関係性・行動等に余白を残すように計算して脚本を執筆している」<sup>72</sup>と述べているが、観客が2回目、3回目と観劇回数を重ねるごとに作品に散りばめられたパズルのピースを拾い集め、ストーリーの考察をするのは、

まさに未満が狙っている空白を埋める行為であると言える。D ステ 12th 『TRUMP』は役者目当てに観劇しているファンが多かったのも事実ではあるが、考察の余白を残す物語構成が俳優のファンの心を惹き付け、物語のファンとして取り込んでいったという流れを見ることが出来る。

### 『LILIUM』

抽出できたポストは約 6,400 件であった。初演、再演や D ステ版からポスト数が大きく増加していることが分かる。

検索ワードとして設定した「LILIUM」の 6930 回を除く 5 位までの単語出現頻度は以下の通りである。(表 3)

表 3 『LILIUM』における単語の出現頻度

単語	出現回数
「TRUMP」	1255
「舞台」	852
「工藤」	586
「ファルス」	507
「歌」	450

「TRUMP」の出現回数が最も多くなったのは、『LILIUM』が『TRUMP』と繋がりを持つ作品として展開されたことに起因すると考えられる。この 2 作品の繋がりとそれに対するファンの受け止め方については、具体的なポストの内容を踏まえて後述するが、シリーズが展開してもファンの関心が『LILIUM』単体だけでなく、シリーズ内の他作品にも向いていたことが分かる。

「舞台」については、共起された単語の組み合わせのうち最も多かったものが「LILIUM－舞台」の 437 回、次いで「舞台－観る」の 306 回、「舞台－思う」の 143 回、「舞台－良い」の 139 回、「ハロー!プロジェクト－舞台」の 113 回が並んだ。上位 4 つは出現しやすい組み合わせであるため言及しないが、「ハロー!プロジェクト－舞台」の組み合わせが多く共起されたことは、『LILIUM』が同じユニットで活動しているアイドルによって演じられた舞台であったことが影響しているとみられる。「工藤」というキャストの個人名がシリーズで初めて上位の出現単語として挙がっていることから、キャストへの注目が非常に高かったと言えるだろう。また、「歌」が 5 位の出現回数であったことは、『LILIUM』が

ミュージカル作品であったことにも起因するが、これもキャストの本職がアイドルであるために歌の上手さに関心が向きやすい作品であったことが要因として考えられる。

このように観客の関心の多くが役者に向いていた一方で、「ファルス」という物語に登場するキャラクターの名前が4位の出現回数であったことは注目すべき点である。第2章で既に述べたが、ファルスは物語の黒幕的存在であると同時に、その正体は『TRUMP』の主人公ソフィ・アンダーソンであるという『LILIUM』においても、シリーズにおいても重要な登場人物である。これまでの作品では役者に注目が集まる傾向にあり、Dステ版こそ物語の内容に言及する投稿が多かったものの、キャラクター名が上位5位以内の出現回数となったのは『LILIUM』が初めてである。つまり、『LILIUM』では役者だけでなく物語に対してより大きな関心が向いていたとすることができる。

その中で、『LILIUM』と『TRUMP』の物語を関連付けてストーリーの考察を行っている投稿も確認できた。「LILIUM-TRUMP」の共起回数が1071回であることから、観客にとって『LILIUM』と『TRUMP』の結びつきが強かったことが分かる。以下は実際に投稿されたポストである。

【リリウム】クラウドはアレンさえ傍にいてくれればよかった。ファルスは誰でも良いから自分の傍にいてくれる存在が欲しかった。クラウドがアレンの身代わりに望んだソフィーの三千年後は、もしアレンがクラウドに永久の命を授けられていたらあーなるんじゃないかなって。血のつながりを感じた。<sup>73</sup>

このような投稿からは、アイドルのファンだけでなく『TRUMP』のファンも『LILIUM』を観劇し、シリーズを通して描かれる巨大な物語世界に考えを巡らせていることが伺える。また、『TRUMP』から『LILIUM』という観客の流れだけでなく、『LILIUM』から『TRUMP』というシリーズを遡る流れが起きていたことも以下の投稿から読み取ることができる。

TRUMP 観たけどリリウムよりきつい印象。ソフィーがリリーでラファエロがマリーゴールド、ウルがスノウってことだよな？もう1回ちゃんと観たいな。とゆうよりD2クラスタの方にいろいろと聞きたい。。<sup>74</sup>

『TRUMP』という作品の中だけでも物語の空白を埋めるために考察をするという動きが起こっていたが、『LILIUM』では新たなパズルのピースが作品を跨いで散りばめられたこ

とで、それぞれの作品の考察の答えを他方に求めてシリーズ内で観客が流動する結果となった。ここから、『LILIUM』は余白を残した物語と作品を越えて伏線を回収するシリーズ構成で役者のファンを物語のファンとして、そして物語のファンをシリーズのファンとして取り込んでいったと考えられる。



## 結論

本論文では、『TRUMP』シリーズが商業的に成功できた要因について、作品プロデュースと SNS 上でのファンの言説という側面から考察を加えてきた。

第 1 章では、シリーズの初演が発表された 2000 年代の関西小劇場の状況について整理した。その結果、1980 年代から始まった関西小劇場ブームはオレンジルームや扇町ミュージアムスクエア等の劇場に支えられて劇団☆新感線をはじめとする人気劇団を輩出したが、2000 年代に入ると終焉を迎え、劇団鹿殺しやヨーロッパ企画など独自の色が評価され人気を得た劇団はあれども、かつてのような活気は失われていったことが分かった。

第 2 章では、末満健一のバックグラウンドとシリーズの作風について調査した。末満にとって、『TRUMP』シリーズはやがて訪れる「死」を受容するための手段であり、故にこのシリーズは末満の死生観が色濃く反映されている作品であることが明らかになった。また、シリーズの作品の特徴として、各作品が単体で成立していながらも互いに関連性を持ち、巨大な物語世界を構成していることが確認できた。

第 3 章では、『TRUMP』シリーズの軌跡を辿り、そのプロデュース手法を明らかにした。D ステ版『TRUMP』や『LILIUM』では、それぞれ 2.5 次元舞台の勃興や女性アイドルグループの舞台出演ブームを踏まえたキャスティングを行い、それがシリーズの成功に繋がったと考えられる。そして、それを可能にしたのは、末満が中心となることで複数の興業会社の下、作品を展開するというプロデュース手法であった。

第 4 章では、こうしたプロデュースによって拡大してきた『TRUMP』シリーズのファンの実態を明らかにするため、X (旧 Twitter) 上でファンの言説を検証した。その結果、いずれの作品においても役者に注目が集まる傾向にある中で、初演、再演 D ステ版では、キャストを入れ替えるなど複数の形態での上演がリピーター獲得に繋がっていたことが明らかになった。また、余白を残した物語であるが故に、複数回観劇する観客が多かった D ステ版では物語の考察を行う投稿が多く確認でき、役者のファンを物語のファンとして取り込むことができていたと見られる。同様のことは『LILIUM』でも確認でき、さらに作品を跨いで伏線が回収されたことで『TRUMP』から『LILIUM』へ、『LILIUM』から『TRUMP』へと観客が流動し、物語のファンがシリーズのファンへと取り込まれていったと考えられる。

以上より、『TRUMP』シリーズが商業的に成功したのは、複数の興業会社の下、時代に合わせたキャスティングで作品を展開するプロデュース手法で新たな観客層を開拓しつつ、余白を残した物語と作品を越えて伏線を回収するシリーズ構成で役者のファンをシリーズのファンとして取り込むことができていたからだと考えられる。

ただし、本論文ではX（旧 Twitter）での調査において、初演から『LILIUM』までのファン層拡大の実態を明らかにすることができた一方で、『LILIUM』以降の舞台作品や小説、漫画、アニメについては検討の余地が残る。特に舞台以外の作品については、近年作品のメディアミックス展開が盛んになっていることを踏まえ、『TRUMP』シリーズにおける効果も調査する必要があると考える。

## 参考/引用文献

- ・ 今村修 (2010) 『“新感線☆物語” . 劇団☆新感線 30 年 サムライたちの軌跡 1980-2010』, 朝日新聞出版
- ・ 上田麻由子 (2020) 『2.5 次元クロニクル 2017-2020 —合わせ鏡のプラネタリウム』 筑摩書房.
- ・ おーちようこ (2017) 『2.5 次元舞台へようこそ ミュージカル『テニスの王子様』から『刀剣乱舞』へ』 星海社新書.
- ・ 木戸文夫編『OMS とその時代—柱のある劇場—扇町ミュージアムスクエアの 18 年』, ぴあ株式会社
- ・ 九鬼葉子 (2016) 『関西小劇場 30 年の熱闘～演劇は何のためにあるのか～』, 晩成書房
- ・ 扇田昭彦 (1995) 『日本の現代演劇』, 岩波新書.
- ・ 中島陸郎 (1991) 『阿片とサフラン』, 長征社
- ・ 西田シャトナー (2015) 「インタビュー コロスの響くロードレース 舞台『弱虫ペダル』に吹く風」, 『ユリイカ 詩と批評』47 (5), p. 53, 青土社.
- ・ 日本演出者協会・西堂行人編 (2009) 『八〇年代・小劇場演劇の展開』 (演出家の仕事③), れんが書房新社
- ・ 細川展裕 (2018) 『演劇プロデューサーという仕事「第三舞台」 「劇団☆新感線」はなぜヒットしたのか』, 小学館
- ・ ミシマ社編 (2016) 『ヨーロッパ企画の本 我々、こういうものです。』 ミシマ社.

## URL

- ・ ABC ホール. 「ABC ホールについて」 . URL  
〈<https://www.asahi.co.jp/abchall/about/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- ・ ACT 泉鏡花. 「公演情報」 . URL  
〈<http://web.archive.org/web/20110706210811/http://www.duncan.co.jp/web/stage/act-kyouka/shedule.html>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ AKB48 公式サイト. 「【岩立・北澤・佐々木・清水】舞台「THE SHOW TIME」出演のお知らせ」 . URL 〈<https://org.akb48.co.jp/news/detailpage/63654074>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ AKB48 Team8 「KISS<sup>8</sup>」 -8th Anniversary Special Performance-. URL  
〈<https://kiss8.jp/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ COOL JAPAN PARK OSAKA. 「施設案内」 . URL 〈<https://c.jpo.jp/theater/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- ・ D ステ OFFICIAL SITE. URL 〈<https://www.dstage.jp/>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)

- HEP HALL. URL <<https://hephall.jp/>> (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- 同サイト. 「ピースピット「TRINITY THE TRUMP -トリニティ・ザ・トランプ-」」. URL  
<<https://web.archive.org/web/20120302165255/http://www.hephall.com/12792/>>  
(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- HKT48 OFFICIAL WEB SITE. 「スケジュール」. URL  
<<http://www.hkt48.jp/schedule/>> (最終閲覧日 2023 年 12 月 17 日)
- in→dependent theatre. 「劇場について」. URL  
<<https://itheatre.jp/concept.html>> (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- NMB48 公式サイト. 「ニュース」. URL <<http://www.nmb48.com/news/>> (最終閲覧日 2023 年 12 月 14 日)
- Nsquare Official Website. 「郷本直也」. URL <<https://nanosquare.com/actors/gomotonaoya/>> (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- Office Novai Entertainment. 「西井幸人」. URL <<https://novai-inc.com/talent/artist/actor/yukito-nishii/#HOME>> (最終閲覧日 2023 年 12 月 9 日)
- OFFICE SHIKA MUSICAL 雑踏音楽劇「ネオンキッズ」. URL  
<<https://shika564.com/neonkids/>> (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- OFFICE SHIKA MUSICAL 「私は怪獣ーネオンキッズ Live beatー」. URL  
<[https://shika564.com/neonkids\\_livebeat/](https://shika564.com/neonkids_livebeat/)> (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- TRUMP. 「TICKET SCHEDULE」. URL  
<<https://napposunited.com/trump/ticket.html>> (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- TRUMP - NAPPOS UNITED. 「CAST STAFF」. URL  
<<https://napposunited.com/trump/cast.html>> (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)
- TRUMP series 15th ANNIVERSARY 『LILIUM -リリウム 新約少女純潔歌劇-』.  
「INTRODUCTION」. URL  
<[https://lilium.westage.jp/pages/6520002/page\\_202210071854](https://lilium.westage.jp/pages/6520002/page_202210071854)> (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)
- 同サイト. 「大阪公演アフターイベント決定！」. URL  
<<https://lilium.westage.jp/posts/42036512?categoryIds=7109724>> (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)
- TRUMP シリーズ Official Web Site. URL <<https://trump10th.jp/>> (最終閲覧日 2023 年 11 月 9 日)
- TRUMP シリーズ TV アニメ「デリコズ・ナーサリー」公式サイト. URL  
<<https://delicosnursery.com/>> (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)

- ・ TRUMP シリーズ最新作『COCOON 月の翳り星ひとつ』. URL  
 〈<https://cocoon.westage.jp/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- ・ 同サイト. 「【COCOON 月の翳り星ひとつ】ライブビューイング実施決定!」. URL  
 〈<https://cocoon.westage.jp/posts/6026739>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)
- ・ TRUMP シリーズ最新作 ミュージカル『ヴェラキッカ』. URL  
 〈<https://verachicca.westage.jp/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- ・ SKE48 OFFICIAL WEB SITE. 「最新スケジュール」. URL  
 〈<https://ske48.co.jp/schedule/list/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日)
- ・ SUPER☆GiRLS Official Website. 「スケジュール」. URL  
 〈<https://supergirls.jp/schedule/index.php>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 14 日)
- ・ 同サイト. 「ニュース」. URL  
 〈<http://web.archive.org/web/20131203093742/http://supergirls.jp/news/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 14 日)
- ・ “Zepp ブルーシアター六本木が 11 月に閉館 土地使用契約終了で”. ORICON NEWS.  
 URL 〈<https://www.oricon.co.jp/news/2092846/full/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- ・ 青山劇場・青山円形劇場. 「公演スケジュール表 2002 年度 5 月」. URL  
 〈<http://www.aoyama.org/schedule/s2002/s200205/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ “「あこがれ」演じる喜び「リボンの騎士」モー娘が出演.”. 朝日新聞デジタル.  
 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ 有田真代. “人生を解釈する光みたいなもの | 末満健一 インタビュー”. Monokaki.  
 URL 〈<https://monokaki.ink/n/ne42ccd104f5d>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 21 日)
- ・ 演劇・映像 企画 制作事務所 アプリコットバス HP, 惑星ピスタチオ. URL  
 〈<https://ap-stage.com/about/planetpistaccio.html>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 9 日)
- ・ 安西慎太郎 OFFICIAL SITE. 「PROFILE」. URL 〈<https://shintarou-anzai.bitfan.id/contents/menu/56120>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- ・ うち劇. 「『カラオケミュージカル』タイムリープガール」. URL  
 〈<https://uchigeki.spwn.jp/events/21101614-timeleap>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ 同サイト. 「ルドベキアの女神たち～禁じられた生徒会～」. URL  
 〈<https://uchigeki.spwn.jp/events/21111315-studentcouncil>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ 同サイト. 「カラオケ探偵～ミステリーはパジャマの調べ～」. URL  
 〈<https://uchigeki.spwn.jp/events/21121915-karaoketantei>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)

- ・ 梅田芸術劇場. 「梅田芸術劇場について」. URL  
(<https://www.umegei.com/guide/about.html>) (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- ・ 演劇女子部. 「LILIUM」. URL (<https://gekijyo.jp/performance/lilium/>) (最終  
閲覧日 2023 年 11 月 27 日)
- ・ 演劇女子部. 「公演一覧」. URL (<https://gekijyo.jp/performance/>) (最終閲覧日  
2023 年 12 月 12 日)
- ・ 大宮高史. “劇作家・末満健一はなぜヴァンパイアを描くのか？ 寂しかった少年時  
代と吸血種たちの「TRUMP シリーズ」がライフワークになるまで”. fumufumunews.  
URL (<https://fumufumunews.jp/articles/-/23755?page=1>) (最終閲覧日 2023 年 11  
月 5 日)
- ・ 大宮高史. “舞台『刀剣乱舞』『鬼滅の刃』劇作家・末満健一が TRUMP 最新作  
『LILIUM』に投影する死生観「毎晩死ぬシミュレーションをしている」”.  
fumufumunews. URL (<https://fumufumunews.jp/articles/-/23756?page=2>) (最終閱  
覧日 2023 年 11 月 27 日)
- ・ 音楽劇「Zip&Candy」. URL (<http://zipandcandy-stage.com/>) (最終閲覧日 2023 年  
12 月 12 日)
- ・ 音楽ナタリー編集部. “AKB 歌劇団「∞・Infinity」出演メンバーついに決定”. 音  
楽ナタリー. URL (<https://natalie.mu/music/news/22055>) (最終閲覧日 2023 年 12  
月 11 日)
- ・ 音楽ナタリー編集部. “アイドルング!!!メンバー8人、舞台上で明治の女学生演じ  
る”. URL (<https://natalie.mu/music/news/149257>) (最終閲覧日 2023 年 12 月 13  
日)
- ・ 音楽ナタリー編集部. “恵比寿リトル歌劇団ふたたび！エビ中 2 度目のミュージカ  
ル”. 音楽ナタリー. URL (<https://natalie.mu/music/news/90973>) (最終閲覧日  
2023 年 12 月 13 日)
- ・ 音楽ナタリー編集部. “エビ中劇団シアターシュリンプ、第 1 回公演は学校が舞台の  
本格ドタバタ劇”. 音楽ナタリー. URL (<https://natalie.mu/music/news/140722>)  
(最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日)
- ・ 音楽ナタリー編集部. “私立恵比寿中学、4 年ぶり主演舞台に意気込み”. 音楽ナタ  
リー. URL (<https://natalie.mu/music/news/365773>) (最終閲覧日 2023 年 12 月 13  
日)
- ・ 音楽ナタリー編集部. “東京パフォーマンスドール、“演劇×ライブ”公演本日スタ  
ート”. 音楽ナタリー. URL (<https://natalie.mu/music/news/97300>) (最終閲覧日  
2023 年 12 月 11 日)
- ・ 音楽朗読劇『黒世界』. URL (<https://trump2020.westage.jp/>) (最終閲覧日  
2023/12/22)

- ・ 同サイト. 「INTRODUCTION／STORY」. URL  
 〈<https://trump2020.westage.jp/pages/3998973/profile>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)
- ・ 株式会社 GFA 芸能事務所. 「染谷俊之」. URL 〈<https://www.gfa.tokyo/someya-toshiyuki>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- ・ 株式会社フジテレビジョン. “【フジテレビ】10月に卒業をひかえたアイドルリング!!!メンバーの新しい挑戦!朗読歌唱劇『あの日、たしかに私たちは「アイドル」だった。』9月5日(土)、6日(日) 渋谷:CBGK シブゲキ!にて上演”. PR TIMES. URL 〈<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000519.000000084.html>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日)
- ・ 木戸邑弥 OFFICIAL WEBSITE. 「PROFILE」. URL 〈<https://kido-yuya.jp/profile/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- ・ 劇団 Patch Official Site. 「劇団 Patch とは」. URL 〈<https://www.west-patch.com/about/>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)
- ・ 同サイト. 「Patch stage vol.6『SPECTER』」. URL 〈<https://www.west-patch.com/event/specter/>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)
- ・ 同サイト. 「Patch × TRUMP series 10th ANNIVERSARY『SPECTER』」. URL  
 〈<https://www.west-patch.com/event/specter2019/>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)
- ・ 劇団☆新感線オフィシャルサイト. 「劇団紹介」URL 〈<http://www.vi-shinkansen.co.jp/about/#02>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 6 日)
- ・ “劇団「アイドルリング!!!」が東京タワーで旗揚げ公演!”. うれぴあ総研. URL  
 〈<https://ure.pia.co.jp/articles/-/624>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日)
- ・ 劇団鹿殺し SHIKA564 Official Web Site. 「鹿殺しとは」. URL  
 〈<http://shika564.com/wordpress/?p=873>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 6 日)
- ・ 劇団プロジェクト. 「公演情報」. URL  
 〈<https://web.archive.org/web/20131216125935/http://gekipro.com:80/Gekipro/stage>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 18 日)
- ・ コミックナタリー編集部. “「TRUMP」ヤングエース新連載、吸血種と人間の混血少年は強く気高く生きる”. コミックナタリー. URL  
 〈<https://natalie.mu/comic/news/403443>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)
- ・ コミックナタリー編集部. “「ダブルヒロイン」舞台化、主演は秋元才加&宮澤佐江”. コミックナタリー. URL 〈<https://natalie.mu/music/news/22055>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 11 日)
- ・ さくら学院. 「学院のあゆみ」. URL 〈<https://www.sakuragakuin.jp/biography/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 14 日)

- ・ 佐々木鋼平. “古田新太と劇団鹿殺しが本気で語る、演劇と「お金」のリアルな話”. cinra. URL <<https://www.cinra.net/article/interview-201512-furutaaratashikagoroshi>> (最終閲覧日: 2023年2023年11月6日)
- ・ サンケイホールブリーゼ. 「劇場概要」. URL <<https://sankeihallbreeze.com/hall/about/>> (最終閲覧日 2023年12月22日)
- ・ サンシャイン劇場 オフィシャルサイト. 「座席表」. URL <<https://sunshine-theatre.co.jp/sheet/>> (最終閲覧日 2023年12月22日)
- ・ “私立恵比寿中学、初となるアニメタイアップ発表!!”. エキサイトアニメニュース. URL <<https://blog.excite.co.jp/exanime/18120208/>> (最終閲覧日 2023年12月13日)
- ・ 装束 meets ミュージカル「不思議の国のひなまつり」. URL <<https://www.iz2tokyo-hinamatsuri.com/>> (最終閲覧日 2023年12月12日)
- ・ 末満健一. “TRUMP シリーズ作・演出 末満健一によるシリーズ紹介 全文”. 末満健一の「すえ咄ちゃんねる」. URL <<https://ch.nicovideo.jp/suemitsu/blomaga/ar1236905>> (最終閲覧日 2023年11月27日)
- ・ スターダストプロモーション. 「ももいろクローバーZ」. URL <<https://www.stardust.co.jp/talent/stardustplanet/momoclo/>>
- ・ ズッキュン娘 オフィシャルウェブサイト. URL <<http://www.zqn-musume.com/>> (最終閲覧日 2023年12月12日)
- ・ ステージナタリー編集部. “「TRUMP」10周年祝う「繭期大夜会」で2000人が大合唱、末満健一「皆様のおかげ」”. URL <<https://natalie.mu/stage/news/356091>> (最終閲覧日 2023年12月12日)
- ・ ステージナタリー編集部. “シベ少の土屋亮一が再び脚本・演出、私立恵比寿中学の舞台第2弾が決定”. ステージナタリー. URL <<https://natalie.mu/stage/news/175070>> (最終閲覧日 2023年12月13日)
- ・ 高田学也. “日本語版 Twitter がサービス開始、独自の広告スペースも用意”. 日経クロステック. URL <<https://xtech.nikkei.com/it/article/NEWS/20080424/299935/>> (最終閲覧日 2023年12月22日)
- ・ 月山武桜. 「上田誠氏、ターニングポイントは「ヨーロッパ企画の『サマータイムマシン・ブルース』初演」」. WEB ザテレビジョン. URL <<https://thetv.jp/news/detail/1102707/>> (最終閲覧日: 2023年10月10日)
- ・ 東京建物 Brillia HALL. 「劇場について」. URL <<https://toshima-theatre.jp/about/>> (最終閲覧日 2023年12月22日)



- ・ 東京パフォーマンスドール. 「PROFILE」. URL  
 〈<http://web.archive.org/web/20230619064719/https://tpd-web.com/profile/>〉  
 (最終閲覧日 2023 年 12 月 11 日)
- ・ 中川實穂. “『黒世界』を踏まえて『ヴェラキッカ』が生まれたように—— “生命賛歌” は続いていく / TRUMP 解体新書 Vol. 8 【最終回】 ”. SPICE. URL  
 〈<https://spice.eplus.jp/articles/296840>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)
- ・ 中川實穂. “末満健一「すべて、命の肯定の物語」 / TRUMP 解体新書 Vol. 2 【そこにある哲学】 ”. SPICE. URL 〈<https://spice.eplus.jp/articles/288910>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 5 日)
- ・ 中川實穂. “「生半可な覚悟ではできない」 / TRUMP 解体新書 Vol. 3 【末満健一が辿ってきた演劇の道】 ”. SPICE. URL 〈<https://spice.eplus.jp/articles/290151>〉  
 (最終閲覧日 2023 年 11 月 21 日)
- ・ 中屋麻依子(方南ぐみ). “【注目インタビュー 私のターニングポイント Vol.15】 腹筋 善之介『何でも手に入る時代だけど集団で一生懸命何かを作る生の姿はネットでは手に入らない だから演劇は面白い』 ”. 演劇ライフ. URL  
 〈<http://web.archive.org/web/20080928191406/http://engekilife.com/feature/interview/15/>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 9 日)
- ・ 西田シャトナー公式サイト. URL 〈<https://www.n-shatner.com/>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 9 日)
- ・ 日生劇場. 「公演案内」. URL  
 〈[https://web.archive.org/web/20010309010056id\\_/http://www.nissaytheatre.or.jp/info.htm](https://web.archive.org/web/20010309010056id_/http://www.nissaytheatre.or.jp/info.htm)〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 11 日)
- ・ ネルケプランニング. 「AiiA presents' 舞台『刀使ノ巫女』」. URL  
 〈[https://www.nelke.co.jp/stage/st\\_toji/](https://www.nelke.co.jp/stage/st_toji/)〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日)
- ・ 同サイト. 「AKB48 チーム 8 単独公演「Bee School」」. URL  
 〈[https://www.nelke.co.jp/stage/akb48\\_beeshool/](https://www.nelke.co.jp/stage/akb48_beeshool/)〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ 同サイト. 「DUMP SHOW!」. URL 〈[https://www.nelke.co.jp/stage/dump\\_show/](https://www.nelke.co.jp/stage/dump_show/)〉  
 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ 同サイト. 「「KISS KISS KISS」」. URL  
 〈[https://www.nelke.co.jp/stage/KISS\\_KISS\\_KISS/](https://www.nelke.co.jp/stage/KISS_KISS_KISS/)〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ 同サイト. 「SKE48 版「ハムレット」」. URL  
 〈[https://www.nelke.co.jp/stage/hamlet\\_SKE48/index.html](https://www.nelke.co.jp/stage/hamlet_SKE48/index.html)〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日)

- ・ 同サイト. 「「絢爛とか爛漫とか」」. URL  
 〈<https://www.nelke.co.jp/stage/kenrantokaranmantoka/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ 同サイト. 「舞台「マジすか学園～Lost In The SuperMarket～」」. URL  
 〈<https://www.nelke.co.jp/stage/maji2016/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ 同サイト. 「舞台「マジすか学園」～京都・血風修学旅行～」. URL  
 〈<https://www.nelke.co.jp/stage/maji/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ 同サイト. 「舞台「山犬」」. URL  
 〈<https://www.nelke.co.jp/stage/yamainu2019/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ 同サイト. 「ミュージカル『AKB49～恋愛禁止条例～』SKE48 単独公演」. URL  
 〈[https://www.nelke.co.jp/stage/akb49\\_ske/](https://www.nelke.co.jp/stage/akb49_ske/)〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日)
- ・ 同サイト. 「リーリングドラマ「もしもキミが。」」. URL  
 〈[https://www.nelke.co.jp/stage/moshimokimiga2011\\_9/](https://www.nelke.co.jp/stage/moshimokimiga2011_9/)〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ 乃木坂 46 公式サイト. 「ニュース」. URL  
 〈<https://www.nogizaka46.com/s/n46/news/list?ima=1525&dy=202312>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 14 日)
- ・ ハロー!プロジェクトオフィシャルサイト. 「愛・地球博パートナーシップ事業イベント モーニング娘。主演 環境省「環のくらし応援団」メンバー 2004 年ミュージカル」. URL  
 〈<http://web.archive.org/web/20040611013043/http://www.helloproject.com/information/music.html>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ 博多座. 「AKB48 グループ特別公演」. URL  
 〈<https://web.archive.org/web/20191113175746/https://www.hakataza.co.jp/lineup/201911/akb48/index.php>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ ぴあ株式会社. “前年比 45%増。成長を続ける 2.5 次元ミュージカル市場／ぴあ総研が調査結果を公表” . URL  
 〈[https://corporate.pia.jp/news/detail\\_\\_live\\_enta20190704\\_25.html](https://corporate.pia.jp/news/detail__live_enta20190704_25.html)〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 11 日)
- ・ ぴあ株式会社. “2.5 次元ミュージカル市場、ウィズコロナのもと過去最高の 239 億円を記録／ぴあ総研が 2021 年の調査結果を公表” . URL  
 〈[https://corporate.pia.jp/news/detail\\_live\\_enta20221005\\_25.html](https://corporate.pia.jp/news/detail_live_enta20221005_25.html)〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 11 日)

- ・ ピースピット 2017 年本公演「グランギニョル」．「CAST/STAFF」．URL  
 〈<https://grandguignol.westage.jp/pages/1023521/cast>〉（最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日）
- ・ ピースピット．「ピースピット VOL.10『TRUMP』」．URL  
 〈<https://web.archive.org/web/20100703071335/http://peacepit.net/stage/archives/71>〉（最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日）
- ・ ピースピット．「ピースピット VOL.13『有毒少年』」．URL  
 〈<https://web.archive.org/web/20101017094023/http://peacepit.net/stage/archives/219>〉（最終閲覧日 2023 年 12 月 24 日）
- ・ “フジテレビアナウンサー朗読劇『イキヌクキセキ』にアイドルリング!!!の出演が決定。朗読劇に初挑戦!”．ORICON NEWS．URL  
 〈<https://www.oricon.co.jp/news/2042053/full/>〉（最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日）
- ・ 舞台『いわかける！ -Sport Climbing Girls-』．URL 〈<https://iwakakeru-stage.com/>〉（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）
- ・ 舞台『キミと僕の最後の戦場、あるいは世界が始まる聖戦』．URL  
 〈<https://kimisen-stage.com/>〉（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）
- ・ 舞台『刀剣乱舞』悲伝 結いの目の不如帰．「スタッフ キャスト」URL  
 〈<https://stage-toukenranbu.jp/archive/hiden/cast.html>〉（最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日）
- ・ 舞台版『マダー☆ミステリー ～探偵・斑目瑞男の事件簿～』．URL  
 〈<https://bandainamco-am.co.jp/am/vg/murdermystery/>〉（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）
- ・ 舞台「マジムリ学園 蓄-RAI-」公式サイト．URL 〈<https://majimuristage-rai.com/1st/>〉（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）
- ・ 舞台「マジムリ学園-LOUDNESS-」．URL 〈<https://majimuristage-rai.com/>〉（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）
- ・ プロダクション尾木．「細貝圭」．URL 〈<https://ogipro.com/talent/hosogai/>〉  
 （最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日）
- ・ 坊ちゃん劇場．「ジョンマイラブ -ジョン万次郎と鉄の7年-」．URL  
 〈[https://www.botchan.co.jp/production\\_rec2.html](https://www.botchan.co.jp/production_rec2.html)〉（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）
- ・ 本多劇場グループ公式 HP．「劇場資料」．URL 〈<https://www.honda-geki.com/about/theaterdocs/>〉（最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日）

- ・ ミュージカル「THE SHOW TIME」. URL  
<http://web.archive.org/web/20211209072526/http://theshowtime.net/?p=74>  
 (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ ミュージカル『テニスの王子様』『新テニスの王子様』公式サイト. 「キャスト紹介 2nd シーズン」. URL [https://www.tennimu.com/cast\\_2nd/](https://www.tennimu.com/cast_2nd/) (最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)
- ・ 同サイト. 「これまでの公演」. URL  
<https://www.tennimu.com/archive/tennimu/first/> (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- ・ ミュージカル「マリーゴールド」. URL <https://marigold.westage.jp/> (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- ・ 同サイト. 「【マリーゴールド】見切れ席販売&ライブビューイング実施決定!」.  
<https://marigold.westage.jp/posts/4518117?categoryIds=1124191> (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)
- ・ 明治座公式サイト. 「2003 年 6 月公演 モーニング娘。主演ミュージカル 江戸っ娘。忠臣蔵」. URL [https://www.meijiza.co.jp/pastinfo/pastinfo-1999-2003/2003\\_06/](https://www.meijiza.co.jp/pastinfo/pastinfo-1999-2003/2003_06/) (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ “モー娘。の保護者サイド? 宝塚・麻路さき”. スポニチ Sponichi Annex. (最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)
- ・ 森ノ宮ピロティールホール. 「劇場のご紹介」. URL <https://piloti-hall.jp/about/> (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- ・ ユーザーローカル AI テキストマイニング. URL  
<https://textmining.userlocal.jp/> (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)
- ・ 吉永美和子. “劇団「ヨーロッパ企画」人気の秘密を探る<前編> ~異色の劇団が起こした革命”. エンタステージ. URL  
<https://enterstage.jp/interview/2015/06/002757.html> (最終閲覧日: 2023 年 10 月 10 日)
- ・ ワタナベエンターテインメント. 「阿久津慎太郎」. URL  
<https://web.archive.org/web/20160405142341/http://www.watanabepro.co.jp/mypage/10000038/> (最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)
- ・ 同サイト. 「荒井敦史」. URL  
<http://web.archive.org/web/20180914201718/http://www.watanabepro.co.jp/mypage/10000037/> (最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)
- ・ 同サイト. 「池岡亮介」. URL  
<https://www.watanabepro.co.jp/mypage/10000039/> (最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)

- ・ 同サイト。「近江陽一郎」. URL  
 〈<https://web.archive.org/web/20160304113339/http://www.watanabepro.co.jp/mypage/10000040/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)
- ・ 同サイト。「上鶴徹」. URL  
 〈<https://web.archive.org/web/20140206011549/http://www.watanabepro.co.jp/mypage/10000033/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)
- ・ 同サイト。「白又敦」. URL  
 〈<https://web.archive.org/web/20181006210238/http://www.watanabepro.co.jp/mypage/10000044/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)
- ・ 同サイト。「陳内将」. URL 〈<https://www.watanabepro.co.jp/mypage/10000036/>〉  
 (最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)
- ・ 同サイト。「末満健一」. URL  
 〈<https://www.watanabepro.co.jp/mypage/60000017/>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 21 日)
- ・ 同サイト。「土屋シオン」. URL  
 〈<http://web.archive.org/web/20180914194833/https://www.watanabepro.co.jp/mypage/10000045/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)
- ・ 同サイト。「前山剛久」. URL  
 〈<https://web.archive.org/web/20181006212107/http://www.watanabepro.co.jp/mypage/10000043/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)
- ・ 同サイト。「三津谷亮」. URL  
 〈<https://web.archive.org/web/20230909153824/https://www.watanabepro.co.jp/mypage/10000035/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)
- ・ 同サイト。「宮崎秋人」. URL  
 〈<https://www.watanabepro.co.jp/mypage/10000057/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)
- ・ 同サイト。「山口賢貴」. URL  
 〈<https://web.archive.org/web/20151208081257/http://www.watanabepro.co.jp/mypage/10000032/>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)

#### 参考 SNS

- ・ X (旧 Twitter) . CHARON@ライスしやわせにおなり (@CHARON1540) . 2013 年 1 月 24 日投稿. URL 〈<https://twitter.com/CHARON1540/status/294436036757577728>〉 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)

- X (旧 Twitter) . 有村葉<\*>。 (@luna\_0207) . 2013 年 2 月 10 日投稿. URL  
 〈[https://twitter.com/luna\\_0207/status/300606539692118016](https://twitter.com/luna_0207/status/300606539692118016)〉 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)
- X (旧 Twitter) . うちやま (@debufoooo) . 2014 年 6 月 28 日投稿. URL  
 〈<https://twitter.com/debufoooo/status/481934516387205120>〉 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)
- X (旧 Twitter) . けい (@uzulove) . 2011 年 8 月 16 日投稿. URL  
 〈<https://twitter.com/uzulove/status/103132853952458753>〉 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)
- X (旧 Twitter) . こじま (@oois\_t) . 2013 年 2 月 22 日投稿. URL  
 〈[https://twitter.com/oois\\_t/status/304774392104230912](https://twitter.com/oois_t/status/304774392104230912)〉 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)
- X (旧 Twitter) . さくら (@sakuraneke\_yuki) . 2014 年 6 月 14 日投稿. URL  
 〈[https://twitter.com/sakuraneke\\_yuki/status/477795226564579330](https://twitter.com/sakuraneke_yuki/status/477795226564579330)〉 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)
- X (旧 Twitter) . すーちゃん♪ (@aaastkjm) . 2013 年 1 月 27 日投稿. URL  
 〈<https://twitter.com/aaastkjm/status/295503952215158784>〉 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)
- X (旧 Twitter) . 末満健一 (@suemitsu) . 2011 年 6 月 9 日投稿. URL  
 〈<https://twitter.com/suemitsu/status/78620211170906112>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 24 日)
- 同アカウント. 2011 年 6 月 13 日投稿. URL  
 〈<https://twitter.com/suemitsu/status/80137390479511552>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 24 日)
- 同アカウント. 2011 年 9 月 10 日投稿. URL  
 〈<https://twitter.com/suemitsu/status/112198160146898944>〉 (最終閲覧日 2023 年 12 月 24 日)
- 同アカウント. 2012 年 10 月 15 日投稿. URL  
 〈<https://twitter.com/suemitsu/status/257789867839352833>〉 (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)
- 同アカウント. 2013 年 1 月 25 日投稿. URL  
 〈<https://twitter.com/suemitsu/status/294495766339256321>〉 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)
- 同アカウント. 2013 年 1 月 30 日投稿. URL  
 〈<https://twitter.com/suemitsu/status/296475080660230145>〉 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)

- ・ 同アカウント. 2019年2月7日投稿. URL  
 〈<https://twitter.com/suemitsu/status/1093350077488291840>〉 (最終閲覧日 2023年11月27日)
- ・ 同アカウント. 2019年2月28日投稿. URL  
 〈<https://twitter.com/suemitsu/status/1100979402928578566>〉 (最終閲覧日 2023年11月27日)
- ・ X (旧 Twitter) . ヒヨウタの嫁は私です (@ayasora1071) . 2013年1月24日投稿.  
 URL 〈<https://twitter.com/ayasora1071/status/294294121928065024>〉 (最終閲覧日 2024年1月7日)
- ・ X (旧 Twitter) . まよい (@mayoi\_hi) . 2012年1月29日投稿. URL  
 〈[https://twitter.com/mayoi\\_hi/status/163627583097929729](https://twitter.com/mayoi_hi/status/163627583097929729)〉 (最終閲覧日 2024年1月7日)
- ・ X (旧 Twitter) . 釉海 (@youmisnail) . 2011年6月15日投稿. URL  
 〈<https://twitter.com/youmisnail/status/80667622584233984>〉 (最終閲覧日 2024年1月7日)
- ・ X (旧 Twitter) . ゆるめるモ!公式 (@ylmlm\_staff) . URL  
 〈[https://twitter.com/ylmlm\\_staff](https://twitter.com/ylmlm_staff)〉 (最終閲覧日 2023年12月17日)

<sup>1</sup> 日本演出者協会・西堂行人編 (2009) pp.17-33, 45-48

<sup>2</sup> 九鬼 (2016) pp.14-15

<sup>3</sup> 以下のオレンジルームに関する記述は下記の出典による

九鬼 (2016) pp.18-28

中島 (1991) pp.41-235

<sup>4</sup> 以下の扇町ミュージアムスクエアに関する記述は下記の出典による

九鬼 (2016) pp.18-28

木戸文夫編 (2003) pp.35, 37, 39, 84, 109, 111, 113, 巻末付録

<sup>5</sup> 九鬼 (2016) pp.50-187

<sup>6</sup> 以下の劇団☆新感線に関する記述は下記の出典による

九鬼 (2016) pp.21-26

今村 (2010)

細川 (2018)

劇団☆新感線オフィシャルサイト. 「劇団紹介」(最終閲覧日 2023年11月6日)

<sup>7</sup> 以下の劇団鹿殺しに関する記述は下記の出典による

劇団鹿殺し SHIKA564 Official Web Site. 「鹿殺しとは」(最終閲覧日 2023年11月6日)

佐々木鋼平. “古田新太と劇団鹿殺しが本気で語る、演劇と「お金」のリアルな話”(最終閲覧日 2023年11月6日)

<sup>8</sup> 以下のヨーロッパ企画に関する記述は下記の出典による

ミシマ社編 (2016)

月山武桜. “上田誠氏、ターニングポイントは「ヨーロッパ企画の『サマータイムマシン・ブルース』初演””(最終閲覧日 2023年10月10日)

吉永美和子. “劇団「ヨーロッパ企画」人気の秘密を探る<前編> ～異色の劇団が起こした革命”(最終閲覧日 2023年10月10日)

<sup>9</sup> 以下の末満健一に関する記述は下記の出典による

有田真代. “人生を解釈する光みたいなもの | 末満健一 インタビュー”(最終閲覧日 2023年11月21日)

---

大宮高史. “劇作家・末満健一はなぜヴァンパイアを描くのか？ 寂しかった少年時代と吸血種たちの「TRUMP シリーズ」がライフワークになるまで” (最終閲覧日 2023 年 11 月 21 日)

中川實穂. “「生半可な覚悟ではできない」 / TRUMP 解体新書 Vol. 3 【末満健一が辿ってきた演劇の道】” (最終閲覧日 2023 年 11 月 21 日)

中屋麻依子(方南ぐみ). “【注目インタビュー 私のターニングポイント Vol. 15】腹筋 善之介『何でも手に入る時代だけど集団で一生涯命何かを作る生の姿はネットでは手に入らない だから演劇は面白い』” (最終閲覧日 2023 年 11 月 21 日)

ワタナベエンターテインメント. 「末満健一」(最終閲覧日 2023 年 11 月 21 日)

<sup>10</sup> 中川實穂. “「すべて、命の肯定の物語」 / TRUMP 解体新書 Vol. 2 【そこにある哲学】” (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)

<sup>11</sup> 大宮高史. “舞台『刀剣乱舞』『鬼滅の刃』劇作家・末満健一が TRUMP 最新作『LILIUM』に投影する死生観「毎晩死ぬシミュレーションをしている」” (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)

<sup>12</sup> 吸血種と人間種の混血種であり、その多くが短命であるとされている。

<sup>13</sup> 吸血種において咬んだ者と咬まれた者の間に生じる主従関係。

<sup>14</sup> 人間で言うところの思春期。幻覚や激しい衝動などの症状が現れ、精神的に不安定な状態に陥る。

<sup>15</sup> TRUMP シリーズ Official Web Site. (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)

<sup>16</sup> 中川實穂. “「すべて、命の肯定の物語」 / TRUMP 解体新書 Vol. 2 【そこにある哲学】” (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)

<sup>17</sup> 大宮高史. “劇作家・末満健一はなぜヴァンパイアを描くのか？ 寂しかった少年時代と吸血種たちの「TRUMP シリーズ」がライフワークになるまで” (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)

<sup>18</sup> 末満健一. “TRUMP シリーズ作・演出 末満健一によるシリーズ紹介 全文” (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)

<sup>19</sup> 同 URL

<sup>20</sup> D ステ OFFICIAL SITE. (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)

<sup>21</sup> X (旧 Twitter). 末満健一 (@suemitsu). 2012 年 10 月 15 日投稿 (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)

<sup>22</sup> D2 メンバーの 2.5 次元舞台出演経験についての記述は下記の出典に拠る

ワタナベエンターテインメント. 「三津谷亮」(最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)

同サイト. 「陳内将」(最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)

同サイト. 「山口賢貴」(最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)

同サイト. 「近江陽一郎」(最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)

同サイト. 「阿久津慎太郎」(最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)

同サイト. 「土屋シオン」(最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)

同サイト. 「池岡亮介」(最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)

同サイト. 「白又敦」(最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)

同サイト. 「前山剛久」(最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)

同サイト. 「上鶴徹」(最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)

同サイト. 「荒井敦史」(最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)

Office Novai Entertainment. 「西井幸人」(最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)

ミュージカル『テニスの王子様』『新テニスの王子様』公式サイト. 「キャスト紹介 2nd シーズン」(最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)

<sup>23</sup> おーちようこ (2017)

<sup>24</sup> 上田 (2020)

<sup>25</sup> グラフはぴあ総研による下記の調査より筆者が独自に作成

ぴあ株式会社. “前年比 45% 増。成長を続ける 2.5 次元ミュージカル市場 /ぴあ総研が調査結果を公表” (最終閲覧日 2023 年 12 月 11 日)

ぴあ株式会社. “2.5 次元ミュージカル市場、ウィズコロナのもと過去最高の 239 億円を記録 /ぴあ総研が 2021 年の調査結果を公表” (最終閲覧日 2023 年 12 月 11 日)

<sup>26</sup> 西田 (2015) p. 53

<sup>27</sup> 『COCOON』出演者の 2.5 次元舞台出演経験についての記述は下記の出典による

安西慎太郎 OFFICIAL SITE. 「PROFILE」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)

ミュージカル『テニスの王子様』『新テニスの王子様』公式サイト. 「これまでの公演」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)

舞台『刀剣乱舞』悲伝 結いの目の不如帰. 「スタッフ キャスト」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)



---

ワタナベエンターテインメント. 「宮崎秋人」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
同サイト. 「陳内将」(最終閲覧日 2023 年 12 月 10 日)  
Nsquare Official Website. 「郷本直也」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
ミュージカル『テニスの王子様』『新テニスの王子様』公式サイト. 「キャスト紹介 2nd シーズン」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
プロダクション尾木. 「細貝圭」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
木戸邑弥 OFFICIAL WEBSITE. 「PROFILE」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
株式会社 GFA 芸能事務所. 「染谷俊之」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
<sup>28</sup> グラフは下記の出典から筆者が独自に作成した  
ピースピット. 「ピースピット VOL. 10 『TRUMP』」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
in→dependent theatre. 「劇場について」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
HEP HALL. 「ピースピット「TRINITY THE TRUMP -トリニティ・ザ・トランプ-」」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
HEP HALL. (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
D ステ OFFICIAL SITE. (最終閲覧日 2023 年 2023 年 12 月 22 日)  
サンシャイン劇場 オフィシャルサイト. 「座席表」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
ABC ホール. 「ABC ホールについて」. 最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
演劇女子部. 「LILIUM」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
森ノ宮ピロティールホール. 「劇場のご紹介」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
劇団 Patch Official Site. 「Patch stage vol.6 『SPECTER』」(最終閲覧日 2023 年 2023 年 12 月 22 日)  
TRUMP. 「TICKET SCHEDULE」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
“Zepp ブルーシアター六本木が 11 月に閉館 土地使用契約終了で”. ORICON NEWS. (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
サンケイホールブリーゼ. 「劇場概要」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
ピースピット 2017 年本公演「グランギニョル」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
梅田芸術劇場. 「梅田芸術劇場について」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
ミュージカル「マリーゴールド」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
劇団 Patch Official Site. 「Patch × TRUMP series 10th ANNIVERSARY 『SPECTER』」(最終閲覧日 2023 年 2023 年 12 月 22 日)  
本多劇場グループ公式 HP. 「劇場資料」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
TRUMP シリーズ最新作『COCOON 月の翳り星ひとつ』. (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
音楽朗読劇『黒世界』. (最終閲覧日 2023/12/22)  
COOL JAPAN PARK OSAKA. 「施設案内」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
TRUMP シリーズ最新作 ミュージカル『ヴェラキッカ』. (最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
東京建物 Brillia HALL. 「劇場について」(最終閲覧日 2023 年 12 月 22 日)  
<sup>29</sup> 演劇女子部. 「LILIUM」. (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)  
<sup>30</sup> 末満健一. “TRUMP シリーズ作・演出 末満健一によるシリーズ紹介 全文” (最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日)  
<sup>31</sup> 対象としたのは以下の 17 組  
モーニング娘。(1997～)・スマイレージ(現アンジュルム)(2003～)・Berryz 工房(2004～)・℃-ute(2005 年～)・AKB48(2005～)・アイドリング!!!(2006～)・ももいろクローバーZ(2008～)・SKE48(2008～)・でんぱ組.inc(2008～)・私立恵比寿中学(2009～)・さくら学院(2010～)・SUPER☆GiRLS・NMB48(2010 年～)・乃木坂 46(2011 年～)・HKT48(2011 年～)・ゆるめるモ!(2012 年～)・Juice=Juice(2013 年～)  
<sup>32</sup> 東京パフォーマンスドール. 「PROFILE」(最終閲覧日 2023 年 12 月 11 日)  
<sup>33</sup> 音楽ナタリー編集部. “東京パフォーマンスドール、“演劇×ライブ”公演本日スタート”(最終閲覧日 2023 年 12 月 11 日)  
<sup>34</sup> グラフは下記の出典から筆者が独自に作成した  
日生劇場. 「公演案内」(最終閲覧日 2023 年 12 月 11 日)  
青山劇場・青山山形劇場. 「公演スケジュール表 2002 年度 5 月」(最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)  
明治座公式サイト. 「2003 年 6 月公演 モーニング娘。主演ミュージカル 江戸っ娘。忠臣蔵」(最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)  
ハロー!プロジェクトオフィシャルサイト. 「愛・地球博パートナーシップ事業イベント モーニング娘。主演 環境省「環のくらし応援団」メンバー 2004 年ミュージカル」(最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日)

---

“「あこがれ」演じる喜び「リボンの騎士」モー娘が出演。”．朝日新聞デジタル．（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

“モー娘。の保護者サイド？ 宝塚・麻路さき”．スポニチ Sponichi Annex．（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

劇団プロジェクト．「公演情報」（最終閲覧日 2023 年 12 月 18 日）

演劇女子部．「公演一覧」．（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

ネルケプランニング．「リーリングドラマ「もしもキミが。」」（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

同サイト．「DUMP SHOW!」（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

同サイト．「舞台「マジすか学園」～京都・血風修学旅行～」（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

同サイト．「舞台「マジすか学園～Lost In The SuperMarket～」」（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

同サイト．「「絢爛とか爛漫とか」」（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

同サイト．「「KISS KISS KISS」」（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

同サイト．「舞台「山犬」」（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

同サイト．「AKB48 チーム 8 単独公演「Bee School」」（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

音楽ナタリー編集部．“AKB 歌劇団「∞・Infinity」出演メンバーついに決定”（最終閲覧日 2023 年 12 月 11 日）

ACT 泉鏡花．「公演情報」（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

コミックナタリー編集部．“「ダブルヒロイン」舞台化、主演は秋元才加&宮澤佐江”（最終閲覧日 2023 年 12 月 11 日）

博多座．「AKB48 グループ特別公演」（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

うち劇．「『カラオケミュージカル』タイムリープガール」（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

同サイト．「ルドベキアの女神たち～禁じられた生徒会～」（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

同サイト．「カラオケ探偵～ミステリーはパジャマの調べ～」（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

坊ちゃん劇場．「ジョンマイラブ -ジョン万次郎と鉄の7年-」（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

ミュージカル「THE SHOW TIME」（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

舞台版『マダー☆ミステリー ～探偵・斑目瑞男の事件簿～』（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

舞台「マジムリ学園 蕾-RAI-」公式サイト．（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

舞台「マジムリ学園-LOUDNESS-」．（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

舞台『いわかける！ -Sport Climbing Girls-』．（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

装束 meets ミュージカル「不思議の国のひなまつり」．（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

OFFICE SHIKA MUSICAL 雑踏音楽劇「ネオンキッズ」．（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

ズッキュン娘 オフィシャルウェブサイト．（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

AKB48 Team8 「KISS<sup>8</sup>」-8th Anniversary Special Performance-．（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

音楽劇「Zip&Candy」．（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

AKB48 公式サイト．「【岩立・北澤・佐々木・清水】舞台「THE SHOW TIME」出演のお知らせ」（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

舞台『キミと僕の最後の戦場、あるいは世界が始まる聖戦』．（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

OFFICE SHIKA MUSICAL 「私は怪獣-ネオンキッズ Live beat-」．（最終閲覧日 2023 年 12 月 12 日）

“劇団「アイドリング!!!」が東京タワーで旗揚げ公演！”．うれびあ総研．（最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日）

“フジテレビアナウンサー朗読劇『イキヌクキセキ』にアイドリング!!!の出演が決定。朗読劇に初挑戦!”．ORICON NEWS．（最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日）

株式会社フジテレビジョン．“【フジテレビ】10月に卒業をひかえたアイドリング!!!メンバーの新しい挑戦！朗読歌唱劇『あの日、たしかに私たちは「アイドル」だった。』9月5日（土）、6日（日） 渋谷：CBGK シブゲキ！にて上演”（最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日）

音楽ナタリー編集部．“アイドリング!!!メンバー8人、舞台で明治の女学生演じる”（最終閲覧日 令和 5 年 12 月 13 日(水)）

スターダストプロモーション．「ももいろクローバーZ」（最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日）

ネルケプランニング．「ミュージカル『AKB49～恋愛禁止条例～』SKE48 単独公演」（最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日）

同サイト．「AiiA presents' 舞台『刀使ノ巫女』」．（最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日）

同サイト．「SKE48 版「ハムレット」」．（最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日）

SKE48 OFFICIAL WEB SITE．「最新スケジュール」（最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日）

“私立恵比寿中学、初となるアニメタイアップ発表！！”．エキサイトアニメニュース．（最終閲覧日 2023 年 12 月 13 日）

- 
- 音楽ナタリー編集部. “恵比寿リトル歌劇団ふたたび！エビ中2度目のミュージカル”（最終閲覧日 2023年12月13日）
- 同サイト. “エビ中劇団シアターシュリンプ、第1回公演は学校が舞台の本格ドタバタ劇”（最終閲覧日 2023年12月13日）
- 同サイト. “私立恵比寿中学、4年ぶり主演舞台に意気込み”（最終閲覧日 2023年12月13日）
- ステージナタリー編集部. “シベ少の土屋亮一が再び脚本・演出、私立恵比寿中学の舞台第2弾が決定”（最終閲覧日 2023年12月13日）
- さくら学院. 「学院のあゆみ」（最終閲覧日 2023年12月14日）
- SUPER☆GiRLS Official Website. 「スケジュール」（最終閲覧日 2023年12月14日）
- 同サイト. 「ニュース」（最終閲覧日 2023年12月14日）
- NMB48 公式サイト. 「ニュース」（最終閲覧日 2023年12月14日）
- 乃木坂46 公式サイト. 「ニュース」（最終閲覧日 2023年12月14日）
- HKT48 OFFICIAL WEB SITE. 「スケジュール」（最終閲覧日 2023年12月17日）
- X (旧 Twitter). ゆるめるモ！公式 (@ylmlm\_staff). （最終閲覧日 2023年12月17日）
- <sup>35</sup> 劇団 Patch Official Site. 「Patch stage vol.6 『SPECTER』」（最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>36</sup> 同サイト. 「劇団 Patch とは」（最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>37</sup> 同サイト
- <sup>38</sup> TRUMP - NAPPOS UNITED. 「CAST STAFF」（最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>39</sup> 末満健一. “TRUMP シリーズ作・演出 末満健一によるシリーズ紹介 全文”（最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>40</sup> ピースピット 2017年本公演「グランギニョル」. 「CAST/STAFF」（最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>41</sup> ミュージカル「マリーゴールド」. 「【マリーゴールド】見切れ席販売&ライブビューイング実施決定！」（最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>42</sup> 劇団 Patch Official Site. 「Patch × TRUMP series 10th ANNIVERSARY 『SPECTER』」（最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>43</sup> X (旧 Twitter). 末満健一 (@suemitsu). 2019年2月7日投稿（最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>44</sup> X (旧 Twitter). 末満健一 (@suemitsu). 2019年2月28日投稿（最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>45</sup> TRUMP シリーズ最新作『COCOON 月の翳り星ひとつ』. 「【COCOON 月の翳り星ひとつ】ライブビューイング実施決定！」（最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>46</sup> 音楽朗読劇『黒世界』. 「INTRODUCTION/STORY」（最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>47</sup> 中川實穂. “『黒世界』を踏まえて『ヴェラキッカ』が生まれたように——“生命賛歌”は続いていく/TRUMP 解体新書 Vol.8【最終回】”（最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>48</sup> TRUMP series 15th ANNIVERSARY 『LILIUM -リリウム 新約少女純潔歌劇-』. 「INTRODUCTION」（最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>49</sup> 同サイト. 「大阪公演アフターイベント決定！」（最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>50</sup> 末満健一. “TRUMP シリーズ作・演出 末満健一によるシリーズ紹介 全文”（最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>51</sup> “「TRUMP」ヤングエース新連載、吸血種と人間の混血少年は強く気高く生きる”. コミックナタリー（最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>52</sup> TRUMP シリーズTVアニメ「デリコズ・ナーサリー」公式サイト. （最終閲覧日 2023年11月27日）
- <sup>53</sup> ステージナタリー編集部. “「TRUMP」10周年祝う「繭期大夜会」で2000人が大合唱、末満健一「皆様のおかげ」（最終閲覧日 2023年12月12日）
- <sup>54</sup> ユーザーローカルAI テキストマイニング. URL <https://textmining.userlocal.jp/>
- <sup>55</sup> 高田学也. “日本語版 Twitter がサービス開始、独自の広告スペースも用意”（最終閲覧日 2023年12月22日）
- <sup>56</sup> ピースピット. 「ピースピット VOL.13 『有毒少年』」（最終閲覧日 2023年12月24日）
- <sup>57</sup> X (旧 Twitter). 末満健一 (@suemitsu). 2011年6月9日投稿（最終閲覧日 2023年12月24日）
- <sup>58</sup> X (旧 Twitter). 末満健一 (@suemitsu). 2011年6月13日投稿（最終閲覧日 2023年12月24日）
- <sup>59</sup> X (旧 Twitter). 末満健一 (@suemitsu). 2011年9月10日投稿（最終閲覧日 2023年12月24日）
- <sup>60</sup> X (旧 Twitter). けい (@uzulove). 2011年8月16日投稿（最終閲覧日 2024年1月7日）
- <sup>61</sup> X (旧 Twitter). 釉海 (@youmisnail). 2011年6月15日投稿（最終閲覧日 2024年1月7日）
- <sup>62</sup> X (旧 Twitter). まよい (@mayoi\_hi). 2012年1月29日投稿（最終閲覧日 2024年1月7日）
- <sup>63</sup> ミュージカル『忍たま乱太郎』の略称
- <sup>64</sup> X (旧 Twitter). すーちゃん♪ (@aaastkjm). 2013年1月27日投稿（最終閲覧日 2024年1月7日）
- <sup>65</sup> 舞台『弱虫ペダル』の略称

- 
- <sup>66</sup> X (旧 Twitter) . ヒョウタの嫁は私です (@ayasora1071) . 2013 年 1 月 24 日投稿 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)
- <sup>67</sup> X (旧 Twitter) . 末満健一 (@suemitsu) . 2013 年 1 月 30 日投稿 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)
- <sup>68</sup> X (旧 Twitter) . CHARON@ライスしやわせにおなり (@CHARON1540) . 2013 年 1 月 24 日投稿 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)
- <sup>69</sup> X (旧 Twitter) . 有村栞 ( @luna\_0207 ) . 2013 年 2 月 10 日投稿 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)
- <sup>70</sup> クラウス/アレン役の陳内将の愛称
- <sup>71</sup> X (旧 Twitter) . こじま (@oois\_t) . 2013 年 2 月 22 日投稿 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)
- <sup>72</sup> X (旧 Twitter) . 末満健一 (@suemitsu) . 2013 年 1 月 25 日投稿 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)
- <sup>73</sup> X (旧 Twitter) . さくら (@sakuraneko\_yuki) . 2014 年 6 月 14 日投稿 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)
- <sup>74</sup> X (旧 Twitter) . うちやま (@debufoooo) . 2014 年 6 月 28 日投稿 (最終閲覧日 2024 年 1 月 7 日)